

# 寺 社 由 来

金沢市立図書館蔵

## 解題

「寺社由来」は、加賀藩領のなかで、寺領・社領を与えられた寺社の由来を記したものである。もと尊経閣に蔵せられ、戦後金沢市立図書館の保管するところとなった「加越能文庫」のうちの一冊である。

加賀藩では、その封域が一向一揆の中心地であったためか、宗教政策については細心の注意が払われている。前田利家が能登に入部するや、菅原行長等在地の有力者に、羽咋本念寺の寺領整理についての諒解を求めたり、関ヶ原の役・大坂の陣などに際して真宗寺院から人質をとっているなどはその例である。寺請制度による寺送り証文なども、元和年間のものが松任聖興寺に伝存している。

元和検地によって真宗寺院の寺領は大きく落されるが、それとともに由緒ある古社寺は藩主の保護のもとに再興され、前田家との特殊関係が強調されてくる。寺社領を与えられた名刹・旧社は、このような性格をもつものであり、ほとんどが天台宗・真言宗に属する修験の霊場、大和政権の北進の基地に発する神社、およびそれから派生してきた林下禪の寺院である。領内に圧倒的多数を誇る真宗寺院では、わづかに土山勝興寺だけが寺領を付与されているにすぎない。藩権力の真宗に対する姿勢をうかがうことができるとともに、これによって古代信仰の霊地が浮彫りにされたことも評価されねばならない。

また加賀藩では、延宝二年と貞享二年とに、加・越・能三州の寺庵・堂社の由来を書上げさせたが、これは石川県庁の総務部や市立図書館で保管されている。本書はその書上げのなかから、藩が寺社領をもつものだけを集録したものである。寺社書上げの全部については、日本海文化研究室で逐次刊行する準備を進めている。

なお本書は、昭和四十五年度科学研究費補助金（総合研究A）「日本海文化の史的研究」の交付を受けて蒐集した文献史料の一部である。

昭和四十六年二月四日

校訂者 井 上 鋭 夫

寺 社 由 来

寺 社 由 来 書 概 目

- 惣持寺(七二) 桃雲寺(七五) 芳春院(七六) 繁久寺(七六) 永光寺(七七) 光禪寺(八二)  
 永伝寺(八二) 蓮江寺(八三) 靈泉寺(八四) 金峯寺(八四) 海門寺(八五) 東漸寺(八五)  
 林洞庵(八六) 亀占庵(八六) 法性庵(八七) 伝燈寺(八八) 高勝寺能州三崎天台宗(八九)  
 波着寺(九〇) 明王院(九一) 宝幢寺(九二) 長楽寺(九三) 長福院能州一宮真言宗(九四)  
 安居寺(九五) 永久寺金沢卯辰山真言宗(九七) 成喜坊羽咋郡菅原(九八) 遍照坊同上 石動山天平寺(一〇〇)  
 二上山養老寺(一〇三) 大岩山日石寺(一〇四) 明日山法福寺(一〇五) 法住寺(一〇六) 円福院(一〇七)  
 吉祥坊同上 大福寺羽咋郡富来真言宗(一〇八) 慶高寺(一〇九) 宝泉寺能至郡道下真言宗(一〇九) 下白山(一一〇)  
 立山岩峇寺(一二二) 中宮観堂新川郡芦峯庄(一二四) 小松天神社(一二六) 石川郡寺中(一二八) 能登郡所口神社(一二九)  
 黒津舟小浜神社(一二二) 埴生八幡宮(一二三) 高岡稻荷神社(一二六) 下白山(一二九)  
 三崎金分・高座神社(一二二) 能州一宮(一二三) 勝興寺(一二六) 国泰寺(一二七)

貞享四年三月

御菩提所之外、寺社方御寺領御社領等被下置候分、由来書写帳

### 惣持寺由来縁起

惣持寺者、元来号諸獄寺。行基菩薩之創建、真言宗之地、住持定賢律師也。元亨元年辛酉四月十八日之夜、律師有本尊觀音大士之靈夢。同宵、今之開山瑩山和尚又夢願之。則彼此等合、律師感奇瑞而讓与寺於瑩山和尚、改教院禪刹具有夢記。

于時、人王九十五代 後醍醐天皇、有十種疑問。瑩山和尚謹答。天皇深有叡感、被補勅願所、改諸獄寺、転成山号・寺号於惣持寺。命少納言行房賜勅額。加之、元亨二年八月廿六日、賜綸旨、諸獄山惣持禪寺者、日域無双曹洞出世之道場、相並南禪、第一之上刹、可着紫衣法服云。彼南禪寺開闢者、雖為建仁寺・東福寺之後、先帝龜山法皇、勅被称五山之上。故惣持寺、雖為永平寺

後、準南禪寺例、以勅宣、曹洞一宗之上、出世第一大本山也。

相繼所賜 宣旨如斯。特賜開山仏慈禪師号、永平道元和尚、後堀河院御宇入末伝来法衣等、悉秘納惣持寺。吾宗出世転位之僧侶、頂拜此衣成更衣式。永平者為山居之地。故從惣持免助成出世十僧之式云。中古永平以下、

於古跡寺院、各一派之僧侶、有成出世之式。東照宮以来悉制禁之。道元和尚伝来法衣、在沈金也。具多羅梵蓋。遺數経天童録二本。道元和尚在宋之日真贋。

### 御綸旨目錄

後醍醐天皇 開山瑩山和尚之時、吾宗始被任出世紫衣之道場。故一宗出世僧侶与公文状者也

後村上天皇

後奈良院

右元龜二年燒失

後陽成院 本紙在。但永平寺謀叛之消綸旨宝印寺開山大秀和尚頂戴

後光明院 本紙在。但最初後醍醐天皇出世紫衣宗旨之上之綸旨、依燒失再申降云。芳春院前住文親和尚頂戴

右天帝勅筆等数通

公家武家寺領寄進状并制札等別紙目錄

## 指上候

一 毎年 禁裏<sup>ニ</sup> 年礼使僧指上。女房之奉書并勸修寺大

納言殿返翰在之。

一 東照權現宮仰法度御朱印。

一 当御先祖以来被下置候御条目并寺領御判物等

一 当寺開山以来代々古録筆記并寄附之画讃等数多御座候。

右由来大略如此候。

芳春院

貞享二<sup>ニ</sup>二月十六日

文明

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

惣持寺開闢以来知行并制札・寄進状其外諸事目錄之

覚

仏供田所附

桜井判物

預所前対馬判物<sup>壹通平</sup>

四至分限判物

領家判物

安堵宣旨状

地頭政所判物

左衛門尉平判物

秀連判物

前右兵衛尉判物

無名判物

とう四郎判物

あまのけんいふ判物

せんしん判物

のりのふ判物

あまのしゆ一判物

長谷部るりわか判物

前三河判物

惟勝判物

愛五判物

信氏判物

氏信判物

宗悟判物

貳通

貳通

壹通

壹通

壹通

九通

壹通

壹通

壹通

壹通

壹通

壹通

壹通

壹通

壹通

貳通

壹通

五通

長谷部制札	忠通	忠俊判物	忠通
同氏判物	六通	尊氏家義政判物	忠通
ふしはらのよりたゝ	忠通	東山殿座主副状	忠通
芝叟沙弥判物	忠通	吉見兵部大輔判物	忠通
沙弥判物	忠通	吉見孫太郎判物	三通
僧宗義判物	忠通	絃朝俊長判物	忠通
光景判物	忠通	修理大夫制札	忠通
宗頼判物	忠通	義綱判物	忠通
宗成判物	式通	左京大夫判物	式通
上使判物	忠通	修理大夫判物	三通
都聞安堵状	忠通	義元判物	五通
玄幸沙弥	忠通	義統判物	式通
政所判物	忠通	元貞判物	式通
基秀寄進状并 祐信添状	式通	道了判物	忠通
僧徳元判物	忠通	統秀判物	忠通
尊氏家義満判物	忠通	等喜判物	忠通
清村判物	忠通	田地所附目錄等	六通
忠元判物	忠通	寄進狀目錄	式通

藏経目錄

老通

百五通

右之通に而御座候。已上。

二月十六日

芳春院

文明印

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

由来御尋ニ付申上候

一 当寺開闢者、高德院様如御遺言、当山ニ御廟御築、  
 慶長五年之春 瑞龍院様御建立。開山者、高德院様引  
 導師宝円寺二代象山和尚、隱居已後住持被仰付候。其時  
 分之御書ニ野田之宝円寺と被遊候。其後寺号桃雲寺<sup>与</sup>從  
 瑞龍院様御付被為成候。元和元年六月十八日寺中致燒  
 失候之處、追付從 芳春院様御再造被成下候。到当歳八  
 十六年ニ罷成候。寺屋鋪之義者、拝領地に而御座候。  
 右由来如此候。縁起・御寄進状・御書等ハ、別紙目錄之  
 通所持仕候。已上。

貞享貳年六月廿六日

曹洞宗野田

桃雲寺

慈門

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

覺

当寺縁起

老軸

利長様御自筆之御書<sup>米并野田山御寄進之旨</sup>

老通

利長様御書<sup>時物獻上之御返札等内貳通ハ御自筆</sup>

五通

利常様寺領之御一行

老通

利常様御代当山之御制状・御判物

老通

利常様御書<sup>時物獻上之御返札等</sup>

拾六通

光高様御意之御制状

老通

<sup>住龍田出雲 神谷式部・横山大膳奉ニ而列判</sup>

右之外所持不仕候。已上。

貞享四年七月廿六日

曹洞宗野田

桃雲寺

慈門

不破彦三殿

## 富田治部左衛門殿

覺

一芳春院開闢者、慶長五年 芳春院様御戒名を、寺院之号ニ御付被為成、御建立被為成、惣持寺御寺領四百石之内当院ニ高三十拾石御寄附被為成、則 芳春院様御位牌当院ニ御立置被為成候。慶長五年<sup>6</sup> 貞享三年迄、八拾七年ニ罷成候。開寺住持象山和尚<sup>6</sup> 只今迄六代ニ罷成候。居屋敷、惣持寺御寺領地ニ罷有候。已上。

能州惣持寺  
貞享三<sup>寅</sup>歲六月廿四日

芳春院看坊

及哲

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

由来御尋ニ付書上申候

一當時開闢者、永祿五年ニ射水郡南条之城主加納中務公発起ニ而、被致建立候。則南条ニ在寺仕候由申伝候。其

後高岡ニ引越罷有候処、正保三年伊藤内膳奉ニ而、為瑞龍院様御廟守、微妙院様寺御建立被為成、寺領地ニ罷成、御一行頂戴仕、年頭之御礼被 仰付候。則寺屋鋪拜領地ニ而御座候。從永祿五年到当歳、百貳拾四年ニ罷成候。

右之外由来并縁起・御寄進状等無御座候。御一行御書別紙目錄ニ記上申候。以上。

越中高岡曹洞宗  
貞享二年十月廿五日

繁久寺

詠天

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

覺

一 利常様御書判五拾石之御一行  
一 利常様御書判<sup>火燃掃除之者御</sup>扶持高九拾石<sup>下知状</sup>

老通  
老通

右之外所持不仕候。以上。

越中高岡  
貞享貳年十月廿五日

繁久寺

詠天



## 不破彦三殿

## 富田治部左衛門殿

洞谷山永光寺由緒御尋<sub>ニ</sub>付書上申候

一当寺者、瑩山仏慈禪師開闢之道場、日本曹洞第三之本寺、後醍醐天皇勅願之地御座候。依然二品親王当国若部保為寺領、御願御成就之前後兩度被成下令旨。同 光明院・御村上院・後土御門院、御代々被下置御祈願所之編旨・院宣。且又尊氏將軍・義満公・同義政公寺領之御寄進狀、其外諸方寄進之狀數十通、於今所持仕候。

一当寺三代無涯智洪和尚在住之節、光明院帝勅賜仏舍利。先住以來奉納方丈内、常致敬重之候。

一当寺者、仏慈禪師初開。故開山遷化後、總持寺一派共、古來輪番住持相勤候。雖然乱国之後、寺領為官家被劫奪、寺家既及荒廢候処、大納言様御入国之砌、当寺古跡靈地之由緒被聞召届、寺領御寄附、被為遣 御寿影付、則奉懸開山堂之内置、住持代々献御茶湯令諷經候。其以

後当寺七代已前無住之砌、御檢地奉行衆、大納言様御寄進之寺領被取上、為看坊料、草高貳拾石之所被殘置由申伝、其通收納仕候。

一大納言様寺領之 御印者無御座候。先住代、以使僧年頭之御祝儀申上候処、預御返札之御書候。

一当時末流之諸寺院、近來江湖之法式、依当山之清規執行之处、拙僧雖有其本源、貧地故不匡開山之旧式、空送光陰候。

右編旨・院宣・令旨、將軍家之御寄進狀・御制札、利家様・利長様・利光様御書、別紙目錄之通、於只今所持仕候。以上。

貞享二年二月十九日

永光寺  
徳岩

## 不破彦三殿

## 富田治部左衛門殿

覚

正平八年後村上院輪旨  
開山仏慈禪師号

菴通

元弘三年  
一二品親王御祈願之令旨

卷通

長祿二年  
一 義政公知行領掌之狀

同

元弘三年

一 後醍醐天皇就御願成就若部保御寄附令旨

卷通

建武三年  
一 源賴顯寺領之狀

同

曆応三年

一 光明院仏舍利御賜之令旨

同

同 四年  
一 若部保御寺領之奉書 右衛門尉判

同

一 同  
一 光明院塔婆御建立之院宣

同

曆応三年  
一 若部保御寺領之奉書 武藏守判

同

建武二年

一 若部保御寄附之国宣 左兵衛尉判

同

建武四年  
一 守順若部保地頭職制札 吉見大蔵大輔判

同

一 同  
一 若部保打渡之狀 岡部小野好連判

同

曆応三年  
一 源賴隆仏舍利御寄進之狀

同

文明十一年  
一 後土御門之御祈願繪旨

同

一 同  
一 源賴隆塔婆料足打渡之狀

同

繪旨・院宣一軸、已上八通

院宣・奉書一軸、已上十一通

曆応二年

一 塔婆院宣按察使經顯判

一通

延文五年  
一 義詮公之時監務禁制 右馬助判

同

建武三年

一 尊氏將軍寺領之御狀

同

応永十四年  
一 高田中務入道山寄進狀

同

曆応三年

一 尊氏將軍塔婆御寄進御狀

同

明応八年  
一 畠山統武山寄進狀

同

応永三年

一 義満公任曆応以来御寄進狀

同

建武三年  
一 古太守宗寂若部保寄附狀

同

文明二年	一 畠山統秀禁札	同	永祿四年	一 畠山修理大夫禁札	奉行 <small>長三河守・衛門判井上次郎右衛門判</small>	同
文正二年	一 酒井五郎左衛門章惠山寄進狀	同	永祿五年	一 畠山修理大夫禁札	奉行 <small>同判</small>	同
文明五年	一 東部孫四郎俊正山寄進狀	同	永祿五年	一 寺領地百姓不所屬地狀		同
応安二年	一 志指見三郎光泰禁札	同	永祿五年	一 畠山兩奉行任寛正以來之例狀		同
応永十四年	一 高田中務入道山寄進制札	同	寛正四年	一 畠山義統寺領寄附之狀		同
同 十七年	一 畠山殿寺内制札之写	同	文保二年	一 信州住海野三郎・滋野信直狀		同
文安二年	一 山之制札	同	文明十年	一 畠山義統寺領狀		同
寛正三年	一 畠山義統国衙役之狀	同	応永九年	一 畠山長禪寺殿守護役免除狀		同
応永五年	一 畠山長禪寺殿寺領狀	同	永正九年	一 畠山德宗一宮社務職田地狀		同
文安二年	一 畠山長禪寺殿寺領狀	同	九月十八日	一 畠山德元代官下知狀		同
永享二年	一 畠山義忠国衙役催促停止狀	同	文和四年	一 三河守寺領之禁制之写		同
永祿五年	一 畠山修理大夫任寛正三年領掌狀	同	禁制・寄附狀一軸、已上廿七通			

一 永永五年 一 洞谷二代明峯十二門派連判寫	一 嘉元二年 一 左衛門尉利忠寄田屋敷狀	同
一 永和二年 一 淨住寺無涯真筆寺領担主狀	一 延慶三年 一 左衛門尉利忠四至境狀	同
一 応安二年 一 総持寺三代太源輪番之時初堂寄附狀	一 一同 一 同断	同
一 応永三年 一 三階七郎太郎家秀寄附狀	一 一同 一 左衛門尉利忠議狀	同
一 貞和三年 一 無底田地寄附之狀	一 一同 一 同断	同
一 一同 一 同断	一 一同 一 藤原章兼壳券之狀	同
一 九月十八日 一 畠山兩奉行端郡七十五村三分一免除狀	一 一同 一 藤原章兼避与狀	同
一 同 一 端郡七十五村三分一免除長統連狀	一 正安二年 一 左衛門尉安堵御下文 <small>陸奥守相模守</small>	同
一 文明十年 一 諸国勸化之内 <small>和泉守大和守</small> 連判	一 文永六年 一 利忠祖父沙弥西願議狀	同
一 正月十一日 一 同勸化之時大館刑部大輔政重添狀	一 延慶三年 一 左衛門尉利忠壳渡狀	同
一 六月十九日 一 就国衙御公事章忠狀	一 一同 一 藤原章兼壳渡狀	同
一 永祿五年 一 美作守統光御給米狀	一 同	同

先師遺戒・武家之狀一軸、已上廿三通

一 道元和尚真筆

元應元年

開山真筆尽未來際置文

元亨三年

洞谷四至境 同筆

同 洞谷文書注文 同筆

同 洞谷寄田注文 同筆

正中二年 洞谷松制禁之書 同筆

正中二年 洞谷置文 同筆

文保二年 平氏女祖忍寄進狀

文保六年 関東安堵御下文相模守 武藏守連狀

開山真筆担越狀一軸、已上九通

外道元和尚真筆一幅

一 洞谷清規

一 洞谷住山記

一幅

一通

同

同

同

同

同

同

二通

同

同

二冊

一冊

応安二年 右馬頭制札

正慶元年 鎌倉殿田畠安堵狀右馬權頭 相模守連狀

嘉暦元年 田忠田畠所附 明峯裏判

正慶元年 村井成知田畠寄進狀

永祿九年 松崎光忠畠寄進狀

明德二年 僧禅暑寄田狀

天文元年 秀頼寺領寄進狀

永享十二年 藤原朝臣信章寄田狀

長祿二年 和田光章寄田狀

永正六年 畠山統忠寺領寄進狀

永祿十二年 中西子息二位寄田狀

一 寺領下知狀長瀬綱重 井上英教連判

一通

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

已上十五通

一 利家様御書

一通

一 利長様御書

三通

一 利光様御書

二通

右之通所持仕候。

貞享二年二月十九日

能州酒井

永光寺

徳岩

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

由來御尋ニ付申上候

一 当寺開闢者 嘉曆元年<sup>丙寅</sup>、至当歳三百五十九年ニ罷成候。開山者登山和尚之上足明峯和尚ニ而候。当寺ハ已前<sup>カ</sup>

伝候墨付之物無之候。故檀越之發起人も知不申候。

一 微妙院様寺領之御一行拝領仕、則年頭之御目見今以被仰付候。居屋敷拝領地ニ居住仕候。右之外由來并縁起・

御寄進状等無御座候。御判物別紙目錄ニ記上ケ申候。以上。

貞享二年五月廿六日  
越中射水郡水見曹洞宗

光禪寺

梅隠

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

寛

一 利常様寺領之御書判物

右之外所持不仕候。以上。

貞享貳年五月廿六日  
越中射水郡水見曹洞宗

光禪寺

梅隠

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

就由來御尋書上申候

一 当寺開闢者、永禄元年ニ存芸長老越中砺波郡矢波村草庵建立、号高德寺罷有申候。天正拾三年砺波郡木舟村之城ニ而、前田右近様御夫婦御逝去付而、御子息又次郎

様、高德寺を御両親之菩提所ニ被仰付、同拾四年ニ寺領御付、御印被下置候。又次郎様、今石動御居城之時分、高德寺を今石動へ被為引、寺御建立被成、右近様御戒名、瑞光院殿蜜庵永伝大居士と申ニ付而、寺号被改永伝寺と申候。同拾五年ニ寺領加増之。

御判并柴山御寄進之御状被下置候。寺屋鋪被下置候ニ而御座候。其後文禄貳年ニ瑞龍院様御印、元和三年微妙院様御印被下置候。永禄元年<sup>ノ</sup>至当歳百貳拾八年ニ罷成候。右由来如此御座候。御印之物并御寄進之帳、別紙目錄之通所持仕候。以上。

越中砺波郡今石動町曹洞宗  
貞享貳年五月廿八日 永伝寺

天沢

不——

富——

覚

一 前田又次郎様<sup>ノ</sup>寺領御判物

式通

一 同柴山御寄進状

老通

一 同加増分所付御印物

老通

一 利長様御印物

老通

一 利光様御印物

老通

一 利常様御書

老通

一 神戸清右衛門・勝見与左衛門・遣水源左衛門寺領所付之連判物

一 柴山拝領之儀ニ付、葛巻隼人<sup>ノ</sup>奥村河内・津田玄蕃方<sup>ニ</sup>被遣候状

右之外所持不仕候。以上。

越中砺波郡今石動町曹洞宗  
貞享貳年五月廿八日 永伝寺

天沢

不——

富——

由来就御尋申上候

一 当寺開闢者、文禄元年ニ而御座候處、其後加州宝四寺末寺ニ相改候。至当歳九拾四年ニ罷成候。

一当寺二代蒙山和尚、加州宝円寺住持之砌、高德院様御焼香被勤、追付当寺江隠居仕候。其節從 芳春院様、

高德院様御寿影被遣、則為御靈供米、居屋敷・門前共

ニ、高拾石之 御印御書兩通被下置候。其後從 微妙院

様御一行致頂戴、今以所持仕候。 右拾石高先年御檢地

被仰付候所ニ、四石五斗出分御座候。此分ハ横山大膳折

紙を以、于今寺納来候。

右之外由来并縁起・御寄進状等無御座候。以上。

能州鳳至郡輪鳴村曹洞宗

貞享貳年丑六月晦日

蓮江寺

大安

不——

富——

由来就御尋申上候

一当寺開闢者、応永拾九年能州惣持寺五院之内洞泉庵無端和尚之弟子日東和尚造立仕、至当歳貳百七拾四年ニ罷成候。

一当寺者、昔畠山家之牌所ニ而御座候。

一端龍院様江当寺五代湛翁和尚申上、居屋敷致拝領候。

元和七年 微妙院様江居屋舗高拾五石七斗五升、為寺

領御印被為下置候。

右之外由来縁起并御寄進状等無御座候。以上。

能州能登郡七尾曹洞宗

貞享貳乙丑年六月廿八日

靈泉寺

天童

不——

富——

由来御尋ニ付申上候

一当寺開闢者、曆応元年開山月庵和尚建立仕、至当歳三百五拾九年ニ罷成候。

一寺先師青林和尚住持之砌、高德院様御旗棹竹御用之

由、御自筆之御書被成下、竹定申候。其後為御吉例、

御出陣之度御旗棹被召上候。依夫御代々御旗棹被召上候。



一高徳院様御代、御旗棹被召上候後、為御寺領草高拾石被下置候。其節寺屋敷茂拝領仕候。御代々年頭御札申上候。

一高徳院様御印之物四通内、御自筆三通。右四通之御書、本紙者 微妙院様御代御印御改ニ付、其時分御奉行横山右近・前田主膳を以、小松へ上置候。写四通者所持仕候。

右之外由来并縁起・御寄進状等無御座候。以上。

能州珠洲郡鵜飼村曹洞宗  
貞享貳年丑七月廿六日

金峯寺

談江

不――

富――

由来御尋ニ付申上候

一当寺開闢者、畠山家建立被仕、三百貫之地寺領ニ寄進候由御座候。乍然、年代者知不申候。其後当寺開山之弟子受繁<sup>与</sup>申僧看坊仕罷有時分、高徳院様能州へ被為

成御入国、當時之様子御尋ニ付而、右之品々申上候へハ、天正拾年ニ草高三拾表被為成御寄進、則御印頂戴所持仕候。居屋鋪拝領地ニ罷有申候。

右由来如斯ニ御座候。此外縁起・御寄進状御書等所持不仕候。以上。

能州能登郡大田村曹洞宗  
貞享貳年六月廿八日

海門寺

本達

不――

富――

由来御尋ニ付書上申候

一当院開闢ハ瑞龍寺御造宮之内、微妙院様御建立被仰付候。年号者申伝無御座候ニ付、不奉存候。万治貳年ニ從 加賀守様、御寺領五拾石之所附御印頂戴、所持仕候。住持代々年頭之御札申上候。居屋敷之儀者、瑞龍寺拝領之内千五百步、致拝領居住仕候。

右由来如此御座候。所附御印別紙之通所持仕候。以上。

高岡瑞龍寺塔頭曹洞宗  
貞享貳年五月七日

東漸院

竜海

不——

富——

覚

一 寺領所附御印

老通

右之通所持仕申候。以上。

高岡瑞龍寺塔頭

貞享貳年五月七日

東漸院

竜海

不——

富——

由来御尋ニ付書上申候

一当庵開闢者、瑞龍寺御造営之内、微妙院様御建立被仰付候。年号者申伝無御座候ニ付、不奉存候。万治貳年從 加賀守様、御寺領三拾石之所附御印致頂戴、所

持仕候。住持代々年頭之御札申上候。居屋敷之儀ハ、瑞龍寺拝領地之内千百步致拝領、居住仕申候。

右由来如此御座候。所附御印別紙之通所持仕申候。以上。

高岡瑞龍寺塔頭曹洞宗  
貞享貳年五月七日

林洞庵

周本

不——

富——

由来御尋ニ付書上申候

一当庵開闢者、瑞龍寺御造営之内、明暦三年ニ微妙院様御建立被仰付候。至当歳貳拾九年ニ罷成申候。則八木三拾俵被為下、其以後万治貳年ニ從 加賀守様寺領三拾石之所附御印致頂戴候。

一当座御建立相濟、入庵仕候節、微妙院様・加賀守様ニ杉原十帖・扇子献上仕ニ付而、御書被成下所持仕候。從先年住持代々年頭之御札申上候。居屋敷之儀者、

瑞龍寺拝領地之内千百步致拝領、居住仕申候。  
右由来如此御座候。所附御印并御書等別紙之通所持仕候。以上。

高岡瑞龍寺塔頭曹洞宗  
貞享貳年五月七日

龜占庵

通電

不——

富——

右由来如此御座候。所附御印并御書等、別紙之通所持仕候。以上。

高岡瑞龍寺塔頭曹洞宗  
貞享貳年五月七日

法性庵

融珍

不——

富——

覚

由来御尋ニ付書上申候

一 当庵開闢者、瑞龍寺御造営之内、明暦三年ニ微妙院様御建立被仰付、至当歳貳拾九年ニ罷成申候。則八木三拾俵被為下、其以後万治貳年從加賀守様、御寺領三拾石之所附御印致頂戴候。

一 当庵御建立相濟、入庵仕候節、微妙院様・加賀守様、杉原十帖・扇子献上仕候付而、御書被成下所持仕候。從先年、住持代々年頭御札申上候。居屋敷之儀者、瑞龍寺拝領地之内千百步致拝領、居住仕申候。

一 寺領所附御印

龜占庵・法性庵・林洞庵江被成下候

壹通

一 利常様・加賀守様御書

龜占庵・法性庵江被成下候

貳通

一 最前龜占庵・法性庵江米三拾俵宛被下置候節、前田對馬・津田玄蕃・奥村因幡、瑞龍寺江參之書狀

壹通

右之通所持仕申候。以上。

高岡瑞龍寺塔頭  
貞享貳年五月七日

龜占庵通電

法性庵融珍

不——

## 御尋ニ付申上候

一瑞応山伝燈寺、開山仏林恵日禪師、時代者延慶元年ニ而御座候。自是至今年、年数凡三百七拾八年ニ成申候。開山伝記等無御座候故、委細不申上候。從中興開山之由來申上候。微妙院様小松ニ御在世之御時、千岳者金沢泉野寺町少林寺ニ罷有候段、微妙院様被仰出者、千岳ニ替弟子老人指越候へと申來候。其時千岳、為使僧、弟子見龍を小松へ遣申候。然所ニ從微妙院様、津田故玄蕃を以被仰出者、伝燈寺を千岳ニ可被下思召候間、千岳如何申候哉、早々罷歸千岳ニ御意之趣可申伸之旨、被仰渡候。其時見龍申上者、伝燈寺之儀、根本紀州由良之興國寺法燈國師之派ニ而御座候へ共、只今者、伝燈寺本寺紀州由良之興國寺も、從紀州様再興被成、拙僧共本寺妙心寺之末寺ニ被仰付候間、千岳違背者申上間鋪と存候得共、早々罷歸千岳ニ

御意之趣可申聞と申上候。重而本寺由良之興國寺さへ妙心寺末寺ニ成申上者、伝燈寺之儀者不及申事候間、罷歸千岳ニ御請上候得と被仰渡候。扱見龍罷歸、千岳ニ御意之趣為申聞候処、忝奉存、千岳小松へ伺公仕、御請申上候。右之趣微妙院様被聞召候而、茅葺古寺御覆、托御再興新敷御建立被成、其上寺領四拾石御加増、先知引合百石之御一行千岳頂戴仕、承応三年千岳入寺仕候。伝燈者微妙院様御取立被成、千岳被下候故、伝燈寺中興開山者千岳ニ而御座候。千岳住持之内、小松へ御召度々、時服・御菓子等、并ニ味雲亭と三字在之額迄拝領仕候。弟子見龍も、千岳名代ニ度々小松へ伺公仕候処、兩度迄御目見仕、菊池高左衛門を以、御菓子拝領仕候。扱又千岳金沢ニ罷有候時、從微妙院様出世迄被仰付、從天子紫衣頂戴仕候。右種々忝奉存、老衰仕候得共、伝燈寺ニ六七ヶ年住持職勤申候。漸及八拾歳申ニ付、住持職難勤を以、至當御代隱居之訴訟申上候処、千岳願之通、弟子見龍ニ後住被仰付候。見龍永々住持相勤罷有候所、延宝四年ニ隱

居之訴訟申上候得ハ、早速願之通被仰付、拙僧後住ニ被仰渡候。拙僧迄三代相統仕、住持職相勤申候。開山時代ハ山林竹木共ニ附来、境目正御座候。于今支配仕候。制札被下置在之候。

一縁起・寄進状等無御座候。以上。

伝燈寺

貞享貳年二月十二日

清堂

不——

富——

由来御尋ニ付申上候

一金分・高座両社草創者、人皇十代崇神天皇御宇ニ而、至当歳千七百八十貳年罷成申候。

一当寺開闢者、寛弘元年恵心僧都之弟子良澄法師之建立ニ而、若干仏像致安置、于今高座宮右之様ニ石塔御座候。至当歳六百八十三年罷成候。高勝寺往古者十二坊御座候得共、唯今者断絶仕、寺屋鋪何<sub>茂</sub>百性地罷成、高勝寺一寺相殘申候。寺屋敷之儀、先代ハ拝領地ニ而御座候

処、御改作以後地子米上之申候。寺領之義ハ、從 高德院様、天正十四年ニ七拾五石拝領仕、内式拾五石者神主大宮<sub>五</sub>被下、式拾五石ハ御修理料米、殘而式拾五石手前拝領仕、年頭御目見今以被 仰付候。

一当社御建立之次第

初度 人皇十代崇神天皇御宇草創

二度 人皇三十代欽明天皇治世<sub>辛酉</sub>貳年

三度 人皇四十代元正天皇養老元年<sub>丁巳</sub>

四度 人皇七十代後冷泉院康平四年<sub>辛丑</sub>

五度 人皇九十九代後二条院徳治元年<sub>丙午</sub>

天正十七年藤原朝臣浜口与三郎勝重講堂再興。

御当家御代之御建立之次第

慶長十九年、從 陽広院様、高座宮御再興

寛永十年、從 微妙院様、高座宮内作事被仰付候

寛永十一年、從 微妙院様、金分宮御再興

寛永十六年、從 微妙院様、観音堂御再興

寛文二年、從 加賀守様、講堂御再興

附講堂社上葺修理被 仰付候

右由来如此御座候。縁起并御寄進状・御書等、別紙目錄之通所持仕候。已上。

貞享貳年七月三日 能州三崎天台宗

高勝寺

惠賢

不――

富――

覚

一 縁起

沓卷

一 天正十二年、從 高德院様、米三拾俵高勝寺へ御寄

進御判物

沓通

但米之儀、何之御代へ不被下候哉。只今者受納不仕候。

一 天正十四年、從 高德院様、田地五町御寄進御判物

沓通

一 慶長十九年、從 陽広院様高座宮御再興御願書

沓通

一 御祈禱御札沓枚指上候刻、從 微妙院様御印之御書

一 承安五年、大介平朝長田地御寄進状 沓通 三通

一 明德二年、滋野林太郎左衛門清貞田地寄進状 沓通

一 応永四年、清原衛門尉光吉田地寄進状 沓通

一 文安四年、深井彈正忠田地寄進状 沓通

一 寛正四年、直頼田地寄進状 沓通

一 永正十年、神保与一元康田地寄進状 沓通

一 大永二年、小倉民部丞吉信書札 沓通

一 永禄三年、大町市兵衛尉書札 沓通

右之通所持仕候。已上。

貞享貳年七月三日 能州三崎天台宗 高勝寺

惠賢

不――

富――

御尋ニ付申上候

一 当寺開山空照者、越前国波着寺ニ在寺仕候。本尊十一

面觀音、為白山本地。同州一乘ヶ谷山之嶺ニ安置候処、

高德院様御当地御打入之以後、右本尊之意趣被為聞

召、空照被為呼、則本尊も御当地ニ被為移、横山左衛門

当居屋舖ニ堂舎致建立、居住仕候。其後 微妙院様御代、

屋敷替被仰付、元和五年ニ只今屋敷拝領仕罷有候。但右

本尊於越前之様子、空照御当地ニ罷越候年号、不奉存候事。

一当寺本尊之像、依為白山由、罷下之白山、可致再興

旨、從 高德院様空照被仰付、則 高德院様・瑞龍院様

・孫四郎様御判物被成下、御分国中以奉加、社頭造営仕

候。其節於下之白山社之後ニ、豎廿三間、横廿間之屋敷

一円被下置候。御再興之棟札・右御判物、延宝八年白山

縁起等御尋之時分、各迄上之申候処、御年寄衆指図ニ而

白山惣長吏方江被遣由ニ御座候御事。

一当寺八幡宮、高德院様越前ニ被為成御座候御時、御

崇敬被為遊、当城御本丸ニ鎮座、其後 瑞龍院様御代、

為雷火御城中致炎上候。其節八幡社恙無御座候処、瑞

龍院様被為成御意趣、其神社安置城内、若垢穢之儀於有

之者、如何敷被思召、波着寺ニ可預置旨、横山々城奉ニ而、当寺ニ被為移置、今以長日御本地供無懈怠致執行候事。

一從 微妙院様、能州石動山大宮坊住持職空照ニ被仰付、相動候刻、石動山ニ被為成置候御条目ニ被記載候御事。

一空照御当地ニ罷越、横山左衛門屋舖ニ罷在候時分、甥杉村柴山之内、当寺為薪用所致拝領、今以被下置候事。

右之通御座候。此外寺由來書并縁起・寄進状等無御座候。已上。

乙丑

二月十六日

波着寺

不

富

就御尋申上候

一当院者、高德院様以来御祈願所に而、先規者本多安房屋敷ニ住居仕、山号金沢山愛宕寺明王院と号候。往昔

之草創開基年代者、旧記等無御座候付、難知候。天正年中之住持、自法印龍遍已後八代目之院主法印有遍時代、

瑞龍院様從越中高岡当御城<sup>五</sup>被為移、其以後慶長五年鬼門先<sup>ハ</sup>愛宕堂建可申由被仰渡、唯今之屋敷拝領移住仕

候。步數之儀者、只今之屋敷山一被下旨<sup>ニ</sup>付、其節御打渡無御座候故、知不申候。其砌愛宕本社・拜殿・三間四面之護摩堂・鳥居・石階并主殿・雜舎・門御造宮被仰付候。社頭者、于今御座。翌年<sup>ニ</sup>真言寺庵八ヶ寺同所<sup>ハ</sup>引越

候歟<sup>ニ</sup>と仰渡、則御書所持仕候。其後從 陽広院様、愛宕堂道筋横三間豎共三間、西尾隼人<sup>ハ</sup>被仰渡拝領仕候。

一慶長十八年十一月十一日<sup>ニ</sup> 瑞龍院様、從 御前様御子孫奉為御安全、伝教大師作藥師之像・大黒天并囃四流・打敷・札箱何も御寄進被為成、于今所持仕候。

一度々御祈禱被仰付候御書・御印數通所持仕候。毎年正五九月御祈禱料、先年者御城北之御藏<sup>ニ</sup>而米三十俵拝領仕候。其節裁許人折紙御座候。從其後八木十俵、今以拝領仕候。此外寺由來・縁起等無御座候。已上。

貞享二年二月十八日

卯辰愛宕山

明王院

不——  
富——

一宝幢寺義、往古者越前府中罷在候。然所 高德院様越前府中被為成御座候砌、当寺開山覺祝法印代、御祈禱被仰付、御代々御祈願寺罷成、覺祝<sup>ヲ</sup>拙僧迄及九代、国家御安全之御祈禱仕候。

瑞龍院様松任<sup>ハ</sup>被為成御座候刻、御供罷越候。右御在城之砌、御城為守護神、京都愛宕山<sup>ノ</sup>権現被遊御勸請、社頭被為成御建立。其已後越中森山<sup>ニ</sup>被召連、於此所も愛宕堂被為成御建立。其後御当地<sup>ニ</sup>被召連、唯今之居屋鋪致拝領、御代々御祈禱致執行來候。為御祈禱料米五石外、正五九月為御賄料四石五斗、每年致拝領候。 微妙院様御代、当寺五代以前之住持祐悟法印代、一七ヶ日之間被為成当寺<sup>ニ</sup>九字護身法被為成御受候由、代々申伝候。

陽広院様右之趣被為聞召上、当寺六代目之住持祐慶法印代、加州一国之真言頭寺仕候様、横山々城を以被仰出、



御祈禱並頭寺相勤申來候。當御代御月次之御祈禱并寒中御祈禱、別而被仰付、無懈怠執行仕候。右御祈禱料、毎年銀子三十枚宛致拝領來候。當寺緣起等所持不仕候。已上。

貞享二年二月廿一日

宝幢寺

不——

富——

### 就御尋申上候

一 当寺者、養老貳年善無畏三藏之開基ニ而御座候。此大徳之比丘ハ、天竺之祖師渡日域行脚、竹橋ニ宿、自是越中ニ越中道有之哉と尋給ヘハ、此峠ニハ化生有之、往来難成申候。三藏彼山ニ登給所ニ、化生、惡劍と依頭、三藏其時、俱利伽羅不動被勸請候得者、惡劍自退治。自夫俱利伽羅山と名付申候。當年九百六拾八年罷成候。其後乱世之時分ハ如何様ニ御座候も、記録無御座候。何之時分御座候哉、寺なとも数多御座候様申伝候。

一 建久七年頼朝家寄附狀御座候得共、最前入御覽申ニ付

而、唯今指上不申候。

一 瑞龍院様高岡ニ御移被為成時分、俱利伽羅堂寺及退転候を御覽被為成、再興可仕住持御尋被為成、中興秀雅被罷出、始而米五拾俵被為下候。

一 慶長十六年、瑞龍院様就御不例、從微妙院様御立願狀・御籠、其以後慶長十九年ニ堂御建立被為成候。則其節瑞龍院様ニ御札指上申候処、從微妙院様石堂御建立被為成候旨、加御書被遊候。從瑞龍院様之御書所持仕候。其後、一山不殘拝領仕候時分之草高、五拾三石ニ而御座候。元和貳年御檢地被仰付、出高三拾七石壹斗余、同四年重而御檢地之節、五石三斗余出高御座候。右三口合九拾五石四斗余拝領仕候。二代之住持、寛永十六年出高拾六石壹斗余、右引合百拾壹石五斗余ニ相極、御印頂戴仕候。唯今迄五代收納、并山林竹木如先規支配仕候。

一 明暦貳年御改作被仰付、只今ハ百姓門前も十村裁許罷成候。

一 中興開山秀雅ハ、從瑞龍院様、伊勢・大峯等ニ御代

參<sub>二</sub>被遣候時分ハ、御国境迄、從<sub>レ</sub>公儀<sup>(五カ)</sup>、軼馬人夫等被為下候。

一中興秀雅ハ、富山富山寺・高岡惣持寺、御当地末寺永久寺懸持仕候。

右之趣如斯候。此外縁起・寄進狀無御座候。已上。

貞享貳年二月廿三日

不——

富——

由来御尋付而申上候

一能州一宮氣多太神宮者、国造大己貴尊、本地勝軍地藏、薩埵滿珠鎮納之社、人皇十代崇神天皇之御宇、社頭草創、至当歳一千七百余年ニ罷成候。往古者度々勅使下際、綸旨被成候由申伝候。近代者永祿年中ニ畠山義綱公社頭再興之節、御遷宮之綸旨被為下候。

一寺院之儀、人皇四十四代元正天皇之御宇、養老年中泰澄大師之開基、至当歳九百六十余年罷成候。支干難知

候。

人皇五十五代文德天皇之御宇、斉衡二年五月詔、氣多太神宮寺置常住僧、聽度三人永々不絶と文德実録ニ載候。

但常住僧之様ハ、神前往古之簡板ニ、三十三之職分ニ坊舎寺院之役付大衆に而載之候。從斉衡貳年至当歳八百三十壹年ニ罷成候。往古者大衆ニ而、斉度等之儀式有之由候。

其後寿永・元暦之乱世<sub>ハ</sub>杜領<sub>ニ</sub>落寺院も減候。至明応八年、畠山義元公社領御寄進被為成、社僧も多ク在住仕候処、又度々之乱世ニ院宇悉致廢絶。天正十年高德院様御

代罷成、一社御取立、杜領貳百石并居屋舖御寄進被為成候。其節寺家纔六ヶ寺罷有、則其通ニ御立被為下候。明

暦三年ニ從微妙院様、先杜領貳百石之上ニ、百五拾石御加増被為下候節、右六ヶ寺之内不動院・明王院<sub>申</sub>弍ヶ寺ハ、無住ニ而書上、長福院・正覺院・薬師院・地藏院住持御座候分書上候処ニ、即被為載御一行ニ、只今四ヶ寺罷有申候。如此当山之寺院、何も同由来ニ而御座候。頭寺之義ハ時々相替、先年之頭寺者薬師院ニ而、右明応八年義元公一山之御印、彼寺ニ被成下候。其後慶長年中之

比々、当寺頭役相動候付而、右藥師院ニ被下候義元公之御印も、瑞龍院様已来之御印も、代々当寺ニ預申候故、目錄ニ載之指上申候。其外御代々度々臨時之御祈禱被為仰付候節、御老中並先々寺社御奉行方之書狀数通致所持候。

一微妙院様大坂御在陣之砌、御祈禱之御卷数横山々城殿迄指上候処、御機嫌能御書被為成下、其外度々御書致頂戴候。

一微妙院様滝谷江御參詣之節、当宮江御社參被遊、則当寺江御入、一宿被為成候。

右由緒如此御座候。縁起并御寄進狀・御書等別紙目錄之通、所持仕候。已上。

能州一宮真言宗  
貞享貳年六月十一日

長福院

盛義

不——

富——

覚

一 縁起

一 利長様御一行

一 利光様御一行

一 利常様御一行

一 利常様御法式

一 利常様御書

一 利光様御書

一 利長様御制札

一 利光様御制札

一 畠山義元公御寄進狀并目錄共ニ

右之外所持不仕候。已上。

能州一宮真言宗

長福院

不——

富——

由来御尋ニ付申上候

一当寺者、天平元年行基菩薩之草創、聖武天皇之勅願所ニ

卷軸

卷通

卷通

同

同

同

六通

壹枚

壹枚

式通

而御座候。往古者、南北両谷坊舎数多御座候由申伝候。其後于今堂寺屋敷相残有之候。至当歳九百五十七年ニ罷成候御事。

一當時本尊者、於切利天釈迦如来安居之際、一花一香一刀三札之尊。其後善無畏三蔵在来朝、於当寺一管九旬之間、依令凝修練給、号安居寺候御事。

一鐘之銘ニハ、慶長十二年鳳温下旬、瑞龍院様御寄進と、御奉行之名、其外別当役人之名迄、具彫付御座候。鐘之御供養被為成候。御自筆之御書被下候御事。

一慶長十六年五月廿七日、瑞龍院様就御不例、從微妙院様、為御立願、堂等御建立可被為成旨之御立願狀御納被為成、于今有之候事。

一元和四年ニ、從微妙院様、為寺領草高式拾石并山錢三百文之所、安居村之内御附被為成、則御一行頂戴仕候由事。

一從微妙院様、慶安元年ニ掛字御表具箱共ニ被為成被下候御事。

一寛文貳年当御代、諸堂破損之修理等被仰付候御事。

一寺之義、從瑞龍院様御立被為成候由ニ申伝候。其後七代以前之別当、持仏堂ニ仕とて客殿立添申候。其節微妙院様御參詣被為成、御気色ニ入不申由ニ御座候故、こほち取申候。只今ハ右之古寺計残御座候御事。右由来如此御座候。縁起者無御座候。御寄進狀・御書等別紙目錄之通、所持仕候。已上。

貞享貳年七月廿三日 越中安居村真言宗 安居寺

良聖

不  
富

覚

一 利常様御一行

宅通

一 同御書

宅通

一 同御立願狀

宅通

奥村河内奉  
篠原出羽奉  
横山々城奉

一 從光高様御狀

宅通

今枝民部奉

一 利長様御書

式通

一 同御自筆御書

老通

是ハ先師代ニ就御尋、横山外記を以御城へ上置申候。

右之外所持不仕候。已上。

越中宮居村真言宗  
貞享二年七月廿三日 安居寺

不

富

由来御尋ニ付申上候

一 当寺往昔ハ下白山にて、一王寺と号候。年来者天文八年之比与之申伝御座候。其以前開基ハ慥成縁起等無御座候ニ付而、不奉存候。其後金沢へ引越、金沢寺と申候。文禄年中之住持ハ長意と申候。長意死去仕、弟子俊栄ニ譲、俊栄ハ秀雅ニ附属仕候。其後秀雅ハ弟子秀縁ニ附属仕候。唯今永久寺と申義ハ、

微妙院様小松ニ被成御座候節、当寺秀縁代、献上物箱之

上書等ニ、金沢金沢寺と書付上之候処、入御覽、為御意永久寺と可号之旨、竹田市三郎被仰渡、夫ハ永久寺と申候。天文八年至当歳百四拾七年ニ罷成候。

一 慶長十七年、浅野川河上ニ而、寺屋舗四拾間四方、從瑞龍院様、秀雅拝領仕候て、後從 微妙院様、為御寺領、門前屋舗五反之所拝領仕候。其比玉泉院様秀雅ニ御祈禱被仰付、御願成就ニ付、慶長年中観音堂一字、則本尊千手観音・縁定不動・毘沙門御建立被遊、今以安置仕候。微妙院様御祈禱仕、御札等指上申候剋、被成下御書等、所持仕候。

一 微妙院様為御用、寛永四年ニ右浅野川寺屋舗被召上、則寺屋舗為替地、九百六拾老步、於卯辰山只今之屋敷拝領仕候。且又門前屋敷五反之所被召上、為替地御寺領百石被下置候処、慶安年中俱利伽羅長楽寺住持秀照死去仕候処、跡職之義ニ付、秀照弟子共及評論候処、微妙院様相立御耳、当寺住持秀縁を俱利伽羅長楽寺住持ニ被為仰付、永久寺者右百石之内五拾石被召上、秀照弟子俊堯を永久寺住持被為仰付候。其後俊堯長楽寺ハ什物之義ニ

付公事ニ取繕候節、右五拾石之寺領に而、住持難相動候旨御断申上、則寺を公義<sup>五</sup>差上申候付、俊堯義退院被仰付候。其節永久寺を長楽寺住持秀縁ニ懸持被仰付候。秀縁死後長楽寺ハ弘誓、永久寺ハ秀圭ニ譲申候。秀圭<sup>六</sup>拙僧迄四代ニ罷成候。先年門前屋敷為替地、從 微妙院様御寺領百石之所附御印之物、五拾石之所附御印之物、微妙院様<sup>五</sup>御祈禱之御札・献上物等上之候付、御書并御年寄衆判形之所附所持仕候。

右之外由來・縁起・御寄進狀等無之御座候。所持仕候御書・御印之物、別紙目錄之通ニ御座候。已上。

金沢卯辰山真言宗  
貞享貳年五月晦日

永久寺  
彦然

不——

富——

覺

一 微妙院様

御書

九通

内

壹通(微妙院様<sup>五</sup>御祈禱之御札献上物等仕候付、御判之御書)

壹通(微妙院様<sup>五</sup>御祈禱之御札献上仕候故、御意之趣、故飛騨守様<sup>六</sup>御判之御書)

七通(微妙院様<sup>五</sup>御祈禱之御札献上物等度々仕候節、御印之御書)

一 御寺領所附 御印之物

壹通

寛永四年当寺門前屋鋪被召上、為替地御寺領百石從 微妙院様御寄進寛永十三年之所附

一 御寺領所附 御印之物

壹通

承応四年從 微妙院様御寺領五拾石御寄進所附

一 御年寄衆判形之所附

壹通

明曆三年前田村馬・奥村因幡・津田玄蕃・菊地大学・伊藤内膳判形所附

右之通所持仕候。以上。

金沢市卯辰山真言宗  
貞享貳年五月晦日 永久寺

不——

富——

由來御尋ニ付申上候

一当寺開闢之年号并何人之建立与申義不詳候。雖然自古

来申伝候ハ、北野靈神勸請仕、神社覺を並、祭礼・法儀彼例式を移し、寺院三十六坊置而、鎮国家神社之随一与仰候処ニ、戦国之砌、神社・仏閣・古記等致焼失、其後拙僧共兩坊先代之住持、以他力、天神宮并坊舍を宮罷在候由、高德院様能州御下向、菅原寺ニ被為成御着座、天神者御氏神ニ付、此所ニ被為成御宿之間、於神前御祈誓可仕旨御意に而、七尾江御発足、彼地御在陣之内、高德院様御手筈并御利運之日限、考可申旨被仰下、則考申上候得者、御機嫌能天神社領式拾五石、兩坊主五式拾石被成下頂戴仕候。其後遍照坊弟子十三之小僧 高德院様御夢想与覺

まもれ国月の光りも清きかな

此旨達御聴、御夢想開被仰付、御懷紙上申候。又越中御在陣之内、

国くゝに栄ふる梅の若枝かな

是又御夢想開被仰付候御事。

一末森之城御利運之剋も、兩坊主早速御札持参上申候へハ、別而天神加護与被為思召旨御意に而、御前江被召出

之由、代々住持口実ニ申伝候。天神由緒之証文・高德院様御書多御座候へ共、先年成喜坊出火之節致焼失、御印御書今二三通御座候。右之旨趣を以、高德院様御影并御墓所立置御廻向、于今無懈怠。扱又神前春秋之祭礼・毎月兩度五節供、惣而年中三十五度捧供物を、御安全之御祈禱相動申候御事。

一正保四年山下吉兵衛御国廻之節、社領被為付置候。社に者見苦敷由、津田故玄蕃迄被申入、其旨 微妙院様達御聴、為御意、社領米を以、社再興可仕旨被仰渡、則神殿致再興、于今破損修理仕候御事。

一寺家屋舗御印者、赤藏山与菅原兩所江一紙ニ被為下、赤藏山中絶之剋、紛失仕、菅原寺ニ者、高畠孫次郎添状迄致所持候。是を以度々御檢地ニ居屋舗被差除候御事。

一右之天神社領之御印壹通、御書三通之内式通并高畠孫次郎添状之儀者、先年横山右近・前田主膳迄可差上由ニ而上置申候。只今御書壹通所持仕候御事。

右由来如此御座候。此外御判物并御寄進状等無御座候。已上。

能州羽咋郡護国山菅原

成喜坊

貞享貳年六月廿二日

空算

同所

遍照坊

秀山

不——

富——

就御尋申上候

一能州石動山金剛証大宝満宮五社大権現者、仁皇十代崇神天皇之御建立に而、本社者虚空蔵菩薩・十一面観音、火ノ宮者正観音、梅ノ宮者將軍地蔵、劔ノ宮者俱利伽羅不動、是又五社権現八十末社之所ニ御座候。然ニ朝字動字仰字申三朝三つ之在名石。此三石者日月星之三徳、生万物種子ヲ云。当山ニハ在動字石。依之名石動山と。天平勝宝八年泰澄大師寺院開闢之故、号天平寺と。崇神天皇御宇六年巳丑ノ年三月十三日、宝満宮柱立、四月晦日棟上、六月十三日御鎮座、貞享二年迄、千七百七拾七年ニ成申候。当社神事・御祈禱者、正月元朝、於大権前ニ衆徒中并両神主、為天下泰平・御武運長久、御祈禱相勤申

候。同三日於講堂、為五穀成就、午王宝印ノ祭并大般若經致執行、三月廿四日梅宮ノ祭、講堂庭前ニ山を莊、為御武運御長久御祈禱、於神前ニ両神主捧湯之花、則湯篠并御卷数御城立指上申候。六月四日、十一面観音祭、為御祈禱、大般若經執行仕候。十月十三日大権前ノ祭。霜月朔日、同三日迄火ノ宮并劔ノ宮祭。極月晦日ハ恙虫ノ祭。其外長日御祈禱相勤申候。神事ノ砌、往古ハ北陸為七ヶ国ノ社人、当社両神主方立五百人宛致出仕、衆烈階脇ノ着衣を仕て、於御神前ニ御武運御長久御祈禱致執行候。然処ニ中古以來社人共連々不參仕、漸能・越両国ノ社人致出仕、神事相勤申処ニ、近年者両国社人共も、登山不仕候御事。一仁皇四十六代孝謙天皇ノ御宇天平勝宝八年、当山権現応神感ノ納受ニ、以勅使藤原左大臣家通公ヲ、七ヶ国御穀智識旦那被為下置、今以加賀・能登・越中・越後・佐渡・飛騨・信濃祈禱ノ札ヲ賦リ、勸進ニ廻リ申候。然加賀国寛永年中御郡御奉行衆、替目之剋々懈怠ニ罷成申候御事。一能登国者、北ノ末崎ニ御座候故、往昔惡魔毒龍所々ニ致障碍ヲ、人民を悩。依之大僧正泰澄為惡魔降伏、右所々ヲ



廻リ祈禱執行之處、惡魔退散仕、人民豊稔候。依之開山泰澄以来、僧正廻リと申候間、毎年四月晦日と五月晦日迄、珠洲・鳳至・能登三郡、今以衆徒為祈禱廻リ申候御事。

一天平宝字七年、孝謙仙洞御重祚ノ御願、当山泰澄大師ニ被為仰付、御願依為御成就、勅使永平卿を以、正一位大僧正・大師号を永宣ニ泰澄江贈給。依之于今当山ノ一薦僧正衣ヲ着シ、正一和尚位之御房と申、二薦者権一和尚位之御房、三薦惣座主ノ御房、四薦別当ノ御房、五薦所司ノ御房、六人目者頭人ノ御房、右上五人ハ五官と申候御事。一泰澄大師者、優婆塞、求聞持頭巾ノ行者。依之從往古当山ニ内ノ峯と申候而、三月晦日と五月三日迄堂ニ籠リ開山掟之行法執行仕、国家安全・五穀成就之御祈禱相勤、先達出成之作法仕候御事。

一從崇神・垂仁御両帝以来、勅願所ニ御座候故、御卷数奉指上。太上皇帝ノ御宇、元和年中之御返告所持仕候。唯今貧寺之衆徒ニ御座候故、禁中様ニ御卷数懈怠ニ罷成候御事。

一御当家從 利家様、天正十九年ニ百俵之御印被為下置候処、慶安五年ニ從 犬千代様、高百石之御加増被為下、利家様百俵ノ御印御引合、高百五十拾石、犬千代様(前出同記)為御代判、利常様御判頂戴仕候。從 利常様・犬千代様、為御祈禱、承応三年ニ大権前ノ宮三間社御建立被為成候。從 加賀守様、寛文八年ニ大権前雪垣被為成候。翌年ニ銅尾并石垣破損修理被為仰付候御事。

一從 利常様、慶安五年石動山惣中ノ印判老ツ被為下置、今以所持仕候御事。

一本身堂塔社立ノ絵図所持仕候。往古ハ寺数三百六十坊、只今ハ五十八ヶ寺在住仕候御事。

一縁起・御寄進状・御書等、別紙目錄之通所持仕候御事。

右之通ニ御座候。已上。

能州石動山天平寺  
貞享二年二月十一日 衆徒中

不——

富——

## 覚

- 一 縁起（自古來の刊之候ヲ、元和年中從禁中様御請書） 一 卷
- 一 禁中様（五）捧御卷數之剋、近衛殿御奏達之御書 一 卷
- 一 從女院御所様（五）もんのかミへ仰ノ御文 一 卷
- 一 女御様之權中納言局之御文 一 卷
- 一 西ノ洞院宰相殿添狀并御返狀共ニ 一 卷
- 一 同目錄 一 卷
- 一 同判鏡 一 紙
- 一 平諫議太夫殿狀 一 卷
- 一 板倉周防守殿狀 一 卷
- 一 從 利家様百俵御寄進之御印 一 卷
- 一 同御書 一 卷
- 一 利長様御書 一 卷
- 一 利勝様御書 一 卷
- 一 犬千代様之為御代判、從 利常様高百石之御印 一 卷
- 一 從 利常様大宮御建立之剋、卷數指上申御返狀 一 卷
- 一 大千代様同御時之御書 一 卷
- 一 從 利常様御寄進之縁起（林道春筆） 一 卷
- 一 同石動山御制法式目 一 卷
- 一 同年頭歲暮之御書 一 卷
- 一 高岡様之為御祈禱、從筑前守様米式拾俵御奉納被遊候剋、笹原出羽・横山山城・奥村河内連狀 一 卷
- 一 禁中様捧御卷數之剋、從松原内匠返狀 一 卷
- 一 一本山堂塔社立之絵図 一 卷
- 一 合三拾六色 一 卷
- 一 右之外縁起・御寄進狀・御書等無御座候。以上。
- 一 貞享二年二月十一日 能州石動山天平寺 衆徒中
- 一 不 一
- 一 富 一

## 就御尋申上候

一越中射水之神社ニ上大権現正一位国主者、元正天皇之御宇養老元年ニ開基。本社者天照太神第三瓊瓊杵尊、脇立者彦火々出見・火闌降命、此之社ハ本地釈迦・薬師・観音ニ而御座候。往昔本社・拜殿・講堂・鐘楼・堂塔・末社百貳拾社・四十九院等、寺数三千八百坊、社人も数多有之候。境内構四門を、東門者城光寺村、北門者大田村之内波田と申所、南門ハ大門村を限、西門者手洗野村と申所ニ二王門寛永三年迄御座候。同拾四年ニ二王唯今本社之前へ引取、于今御座候。右四ヶ所之領内不残寺社領ニ而御座候。惣山号ハ二上山、寺号ハ養老寺、先規者縁起御座候得共、乱世之剋散失仕候。其砌寺社領等も致退転、社堂及破壊申旨申伝候御事。

一権現之本社三間、社拜殿三間五間、二王門二間三間、嶺之山王院内之観音堂、内辻之薬師堂、何も一間社、今程者及大破申候。講堂・鐘楼・堂塔・屋敷、石場斗ニ御座候。勿論坊舎退転仕、今程権現之別当職慈尊院・本覚坊・金光院、此三ヶ寺御祈禱無懈怠相勤、正五九月御札

## 上申候御事。

一慶長十五年 瑞龍院様ニ社頭被為加御修理、同年二上之山、如先規権現ニ被為成御寄進御判、致頂戴、為三ヶ寺支配仕候御事。

一元和元年ニ 玉泉院様ニ拜殿被為成御建立候御事。

一三ヶ寺屋敷先年ニ拜領仕候。元和七年二上村百姓地へ御竿入之砌も、右三ヶ寺屋鋪被指除、今以拜領仕候御事。

一寛永十五年ニ 微妙院様ニ社地之内草高六石七斗九升式合之所、権現御供田ニ御附被為成候御事。

一瑞龍院様ニ上山御寄進并御供田内三ヶ寺屋鋪、何茂御判物、万治二年ニ前田主膳・横山右近承ニ而可被入御披見旨ニ而、御預リ可被成由被仰渡、則兩人江上置申候。

右之外、寺由来・御寄進状等無御座候。以上。

貞享貳年二月十四日 二上山 養老寺

不——

富——

由來御尋ニ付申上候

一 当山開闢者、聖武天皇御宇天平貳年御建立、当年迄九百五十六年ニ罷成申候。

一 石像之不動、長サ老丈八尺、脇立四軀、行基菩薩之御作。

一 古ハ貳拾壹社、坊数六拾坊之所。

一 新川郡之内大社ニ而、御郡中惣氏子、毎年七月廿七日、同廿八日迄、氏子參詣神事執行仕來候御事。

一 寺古來之縁起燒失仕、無御座候御事。

一 慶安五年ニ從 微妙院様・加賀守様御祈願寺ニ被仰付候御事。不動堂并拝殿・奥院堂・鐘突堂御建立、山林・竹木・居屋敷并寺領知、從 微妙院様被仰付候御事。

一 客殿・庫裏已下、寛文貳年ニ当御代御建立被仰付候御事。

右由來如此御座候。御寄進狀・御書・御印・御寄進物別紙目錄之通所持仕候。已上。

貞享貳年六月十三日 大岩山真言宗

日石寺

弘慶

不——

富——

覚

利常様寺領御寄進狀

老通

寺領所附

御印

老通

利常様

御書

式通

利常様

御印

五通

狩野法眼筆ニ而

不動像

松平大千代公様  
小松中納言利常公様御兩様御寄進

誕生石

上包之脇砂物從  
利常様御寄進

右之外所持仕不申候。已上。

貞享貳年六月十三日 大岩山真言宗 日石寺

弘慶

不——

富——

由来御尋ニ付而申上候

一明日山者大同元年之開基、七堂伽藍之由申伝候。仁王門之内十六坊ニ而、坊名于今知居申候。慥成記録等無御座候。中興開山天文年中院主法印秀運ニ至当年、百三十年余ニ罷成申候御事。

一越中富山ニ佐々内藏助在城之砌、太閤様御福山ニ御出馬被為成候節、明日山ノ御祈禱之御札・神酒指上候処、奉入御感候由、其砌早速富山御手ニ入候付、其時住持被召出、観音為灯明田、百俵之地御寄進被為成候由、其後高徳院様御代ニ、右之御寄進領被為召上候故、坊主共、百姓並ニ諸役を勤罷有候。然所ニ太閤様高麗陳ニ御立被為成候剋、住持高簾夫ニ当リ伏見迄罷越候故、香蔵主以御理申上候へ者、明日山之義、如先規灯明田御付候様ニと、香蔵主承ニ而高徳院様立御理之義ニ付而、高徳院様文禄貳年ニ観音為灯明田、百俵地御寄進被為成候。御朱印所持仕候御事。

一唯今之観音堂、玉泉院様・微妙院様以御意、御家中并新川郡奉加仕、観音堂造立仕候様ニと被仰出、為御合

力御米百石被為下、本保加左衛門・長谷川宗兵衛承ニ而、御米相渡申候。其外手前之銀子奉加等を以、観音堂造立仕、御祝儀指上申候処、御印被為下、所持仕候御事。右由来如此御座候。御寄進状・御書等別紙目錄之通所持仕候。已上。

貞享貳年六月十六日 越中明日山真言宗 法福寺

秀円

不——

富——

覚

一 高徳院様ノ灯明田御寄進状

竜通

一 微妙院様御書

五通

右之外所持不仕候。已上。

貞享貳年六月十八日 越中明日山 法福寺

不——

富——

## 就由来御尋ニ申上候

一当寺開闢者、弘法大師弘仁年中草創之地、八百七拾年余、則靈宝印板ニ承和元年三月空海書之与判形有之候。

然共弘仁何年之建立と申義、縁起等ニも慥ニ無之候。中

興者虚円上人之由、自古勅願之御祈禱所ニ被仰付、七堂

伽藍之旨、由来縁起ニ御座候。其後致焼失、只今ハ講堂

一字・鎮守白山宮一字・同拜殿一字御座候。諸堂本尊之

儀、講堂本尊弥陀三尊行基之作、金堂本尊藥師如来春日

之作、弥勒堂本尊弘法大師之作、奥院御影弘法大師自

作、中門本尊毘沙門春日之作、大門二王運慶之作。次宝

物之義、大師相伝之仏舍利二粒、大師所持之五鈷、大師

自作之宝劔一揮、船板弥陀名号印板壹枚、弘法大師之

作、則名判有之候。大師自画自讃御影壹幅、不動像印板

壹枚弘法大師之作、理趣經全部印板四枚弘法大師作之由

申伝候。法華經印板式枚弘法大師之作、全部不仕候。但

右品之宝物、微妙院様入御覧、表具鞘・同袋・箱等被

仰付、寺領御寄附被遊候。其外講堂一字・鎮守白山宮一

字・拜殿一字、從 微妙院様御代破損御修理被仰付、今

以右通ニ御座候。居屋鋪之儀 高德院様御代ハ拜領仕候  
ヘ共、明暦貳年ハ地子地ニ罷成候。

右由来如此御座候。縁起・御寄進狀等所持仕ニ付、別紙

記上之申候。已上。

能州珠洲郡鵜海村真言宗  
貞享貳年六月十二日 法住寺

範栄

不――

富――

覚

一 縁起

壹卷

一 頼朝公

寿永年中御寄進狀

壹通

一 利家様

当寺知識領御印

同

一 同

大師御影堂造立料御印

壹通

一 利常様

寺領御印

同

一 藤原宗信卿

当寺山林伐取候事、禁制  
応長元年同三年判之物

式通

一 左衛門尉基光卿

当寺供養之事、  
康永二年判之物

壹通

左衛門尉康言卿

馬上海之事、康元年  
中文永十一年判之物  
(弘長力)

式通

一同

子の四年寄進状

老通

一 統秀

文明十二年寄進状

同

一 総光

課役免除之事、享祿四年判物

同

一 同

同年寄進状

同

一 左衛門尉

当山之領村檢断并罪科之沙汰、可  
任院主意之旨、嘉曆三年判之物

老通

一 前肥後守

右同断、但元弘三年判之物

老通

一 同

当寺造立料之事、  
建武元年判之物

同

一 越前守久盛

御家門御祈禱之事、  
永和元年判之物

同

一 左衛門尉

当寺造立料之事、建武元年判之物

同

一 地頭政所代

弘安七年寄進状

同

一 預所

永仁五年寄進状

同

右之外所持不仕候。已上。

富

就由來御尋申上候

一 当山開闢、往古誰人之建立、勿論年号不奉存候。然其  
熊野權現致勸請、本社拜殿有之候。中興徳田佐渡守、永  
祿十年七間四面之講堂一字致造営、社領致寄附候。到当  
年百拾九年罷成候。其由緒 高德院様当国御打入之剋、  
被為聞召、庵寺・居屋舗・山林竹木共被為下置、元和七  
年從 微妙院様、居屋敷之所寺領被仰付、御印頂戴仕  
候。延宝八年三月廿一日、座主円福院火事之剋、右之御  
印致燒失候。年頭御礼、座主老人申上來候。右之外由來  
并縁起等無御座候。已上。

能州羽咋郡徳田壺山安養寺真言宗

円福院

有雅

能州珠洲郡鵜海村真言宗

法住寺

範栄

吉祥坊

高法

常住院

有栄

不――

一乘坊

有正

宝泉坊

来栄

文殊坊

宥尖

不——

富——

由来御尋ニ付而申上候

一当寺開山円空上人、大宝三年草創之地。本尊者観音、

行基之自作、月之十八日之夜毎、挙物龍燈。依之号金龍

山。往昔ハ七堂伽藍・寺家十二坊有之由申伝候。雖然断

絶年久、縁起法物等散失仕候。中興開山ハ北之坊、実名

者不奉存候。從大宝三年当八百七年、元龜三年ニ堂社并

草庵取立罷在候。元龜三年ニ至当歳百十四年ニ罷成候。

從 高德院様北之坊ニ、度々御祈禱被仰付、堂社修理被

仰付候節、被成下御書候。慶安三年ニ津田故玄蕃能登国

廻リ之砌、右之品々被聞届、御書等 微妙院様被入御覧

候処、為中将様御祈禱之寺社領、高式拾石被遊寄附、御

判物被成下候。同馬場小七殿奉ニ而、観音堂修理萱葺ニ

被仰付候。同十一月堂社寺御造宮可被仰付候由ニ而、山

上善右衛門罷下、指図絵図仕、入御覧候。其後材木被仰

付、承応元年ニ富木五到着、明暦元年迄有之候処、高岡瑞

龍寺御建立ニ付、先ニ借リ分与御座候而、右之材木彼地ハ

被遣候。寛文七年ニ御從 中将様、観音堂并講堂、六社

之宮一ウ、拝殿・鳥居二、右御造宮被仰付。今以破損修

理被仰付、居屋鋪拝領仕罷在候。右由来如斯御座候。

御寄進状・御判物以別紙目六申上候。已上。

貞享式年六月十一日

能州羽咋郡富来真言宗

大福寺

栄雄

不——

富——

覚

一 利家様御書

一 利勝様御書

一 利常様御寄進状

六通

一通

同



一 同御書

同

一 綱利様御書

同

右之外所持不仕候。已上。

。差出書、宛所、前掲ニ同じ

由來御尋ニ付申上候

一 当杜開闢者、養老二年行基菩薩之草創、元正天皇之勅願所ニ而御座候旨申伝候。本社者文殊、脇座者不動・藥師ニ而、南北両谷四拾九坊有之候所ニ、先年乱世之砌ヨリ

一 杜一寺ニ罷成候。講堂・勅使之館礎石于今御座候。從

先規廻国六拾六部之經、当杜ニ納來候事。

一 正保二年ニ從 微妙院様、本社・拜殿・三杜之御興、

御建立被為成候事。

一 犬千代様為御祈禱、從 微妙院様慶安三年ニ寺社領拾石御付被為成、則御一行于今所持仕候。寺・居屋敷者、地子屋舖ニ而御座候。每年正五九月、御祈禱相勸御札指

上申候。代々御目見仕來候事。

一 先年之縁起致燒失付、先師時代新ニ考書仕置候。

一 養老二年ヨリ當歲迄九百六拾八年ニ罷成候。

右之外記錄・御寄進狀等無御座候。已上。

貞享二年七月廿七日 越中真言宗 慶高寺

祐玄

不——

富——

就由來御尋ニ申上候

一 当寺開山惠照、正和年中護摩堂并坊舍取立候由申伝候。別而誰人之建立与申儀無御座候。中興年号不奉存候。天正年中 高德院様能州被遊御入国、当寺被為掛御腰、其節寺領五石之御印被成下候。其以後禪宗住持仕罷有候处、其趣 微妙院様被聞召、承応貳年如古來真言寺ニ被改、住持之儀同州石動山ニ被召居候。同三年ニ繼目之御印頂戴仕候。居屋舖拜領地ニ罷在申候。

右之由來如此御座候。御印寄附之狀・縁起等、以別紙目

録申上候。已上。

能州鳳至郡道下真言宗

宝泉寺

有通

不——

富——

不——

富——

由来御尋ニ付申上候

一 白山者、伊弉册尊天地開闢之元祖、則開闢ヨリ下白山ニ鎮座之旨申伝候。禪頂者、元正天皇御宇養老元年泰澄大師開基ニ而、今年迄九百六拾九年ニ罷成申候。縁起等者、一 揆乱逆之時分亡失仕候。少々神書ハ在之候へ共、慥成縁起と申御事ハ無御座候。

一 微妙院様ハ慶長十六年ニ御神領七拾四石御寄進被為成、神主中私拝領仕申候。御寄進状神主方ニ所持仕候。

一 当殿様ハ寛文六年ニ御知行百石拝領仕候。則御一行并所附候御印頂戴仕申候。

一 綸旨五通、天正十二年以後私迄代々致頂戴申候。別出世入用銀度々御代々拝領仕来候。殊私出世之時分ハ、官物大分入申候之処、從 当殿様入用不残拝領仕、在京中御扶持迄被為下、則後水尾院綸旨頂戴仕候。

一 利家様御印

寛

一 利常様御書

老通

一 綱利様御書

老通

一 平行兼寄進状

同

一 太田将監範本寄進状

同

一 庄主彦寿寄進状

同

一 沙弥寄進状

同

一 縁起

老通

右之外所持不仕候。已上。

貞享貳年六月十一日

能州道下

宝泉寺

高德院様・瑞龍院・微妙院様・陽広院様御判奉加帳四

冊、先長吏澄州迄代々頂戴仕、金子三枚先拝領仕候。

高德院様・瑞龍院様御奉加帳ニハ、金子参枚御記不被遊候。

微妙院様・陽広院様御奉加帳ハ金子三枚と御記被為成下候。則御自筆之旨申伝候。

一居屋敷之義ハ、四段之所ニ先規ヲ罷在申候。

一制札之義、先年ハ御座候旨及承申候へ共、只今ハ無御座候。

一私先祖之義、白山草創より別当職ニ而神役相勤、只今迄相承仕来申候。系図伝記等ハ、一揆乱逆ニ亡失仕候旨申伝候。氏ハ藤原ニ而御座候。

右由来如此御座候。繪旨・御判之物・御一行・御書等、別紙目録之通所持仕候。已上。

貞享貳年

八月廿三日

下白山

惣長吏

澄意

不

富

覚

繪旨 但天正十二年以後、私代々頂戴仕申候。 五通

利長様御書御自筆之旨 式通

但社頭一字御建立可被為成旨ニ付、長吏神主ニ被為成候。

利長様御書御自筆之旨 式通

但御札上ニ申刻、私先祖澄清ニ銀子并御かたひら致拝領候節、被為成下候。

利光様御書御自筆之旨 式通

但御祈禱被為仰付候刻、被為成下候。

利光様御判御書 式通

但御札進物上ニ申ニ付被為成下候。

利常様御判・御書 壹通

但御湯治之刻、進物上ニ申ニ付被為成下候。

利常様御印御書 六通

但御札進物上ニ申ニ付被為成下候。

利常様御印御書 壹通

但御札上ニ申ニ付、富田善左衛門殿充所ニ而長吏神主被為成下候。

利家様御判奉加帳 壹冊

但天正十四年ニ致頂戴候。

利長様御判奉加帳 壹冊

但慶長十一年ニ致頂戴候。

利光様御判奉加帳  
但慶長廿年ニ致頂戴候。

老冊

光高様御判奉加帳  
但寛永廿年ニ致頂戴候。

老冊

当殿様御一行  
但寛文六年ニ百石之御一行并所附之御印壹通所持仕候。

壹通

利家様・利長様御判奉加帳  
但波着寺ニ在之候処、延宝八年ニ御渡被為成私方ニ所持仕候。

式冊

当社棟札之掛物

老軸

但嵯峨大覺寺殿自筆之由、是も波着寺ニ有之候処、私方ニ御渡被為成所持仕候。

右之外所持不仕候。以上。

貞享貳年八月廿三日

下白山

惣長吏

澄意

不

富

由来御尋ニ付申上候

一当寺者立山大権現之前立、開闢者仁王四拾二代文武天皇之御願所、大宝元年ニ慈興上人之草創、越中守佐伯有

若之建立、至当年ニ九百八拾五年ニ罷成候。

一立山大権現者、伊弉諾尊・刀尾天神、御本地者阿弥陀如来・不動明王両社新ニ作玉リ、社堂数四拾七社、谷一百三拾六、地獄有之故ニ、日本三禪定之内一禪定之峯ニ而御座候。天之岩峴寺者、刀尾天神之御社、天之磐戸号仮殿、神代ノ御座候。依其立山ノ前立、社堂数拾九社御座候。就中戦国時分、凶賊ノ放火ニ而、文武天皇之御綸旨并慈興上人筆作之縁起焼失仕申候。右ノ縁起衆徒中写置候ニ付而、唯今以写所持仕候。先年ノ立山別当ハ、岩峴寺式拾四坊各番ニ相勤申候。先規ハ坊数多御座候ヘ共、所々退転仕申候。

一権現御宝物、別紙之通、慈興上人峯之御本社ニ被籠置候所、今以御本社ニ御座候。

一諸役之義、山錢等御免許被為成候ニ付而、横山大膳・岡嶋備中・前田五兵衛書状所持仕候。

一利長様、立山岩峴寺講堂上簀被為仰付、其後大風ニ退転仕候。

一微妙院様、立山前立岩峴寺之御社檀・拜殿、慶長拾七

年・正保式年兩度破損修理被為成候。同年、当殿様御

祈禱、毎年毎月一七日充灌頂修行被為仰付、為其領米八

石被為下候処、万治三年ニ被召上候。

一微妙院様々、寛永拾八年ニ立山峯ノ御本社御再興被為成

候。

一玉泉院様々、元和三年ニ峯之宝堂御再興被為成候。

一当殿様々、寛文七年ニ立山御本社宝堂御再興、同年ニ岩

峠寺之御社壇・拝殿・鐘撞堂破損修理被為成御遷宮、為

入用ト計帳并品々御寄進被為成候。今以諸堂破損修理被

為仰付候。

右由来如此ニ御座候。縁起・御寄進状等別紙目錄之通所

持仕候。以上。

立山別当岩峠寺  
貞享式年十一月廿七日 衆徒中

不

富

覚

一 大縁起

老冊

一 小縁起

老卷

一 鬼のきば 峯ノ御本社ニ御座候

老枚

一 人ノ角 同

式つ

一 馬ノ角 同

同

一 有頼ノ矢根 同

一 ゑと錢 代々古錢共峯ノ御本社ニ御座候

一 利家様御印

老通

一 利長様御印

同

一 利光様御印

老通

一 佐々内蔵助御印

同

一 諸役御免許ニ付而、前田五兵衛状

同

一 神領之外諸役御免許ニ付、岡嶋備中状

老通

一 山錢御免許ニ付、横山大膳方小嶋民部・横地小兵

衛・山森吉兵衛充所之状

一通

一 江戸

一 公方様御祈禱

一 利光様々数度被為仰付候ニ付而、本多安房・横山々

城・奥村河内・奥村大膳・奥村因幡・津田玄蕃・葛

卷隼人・前田出雲・葛巻藏人・茨木右衛門・山崎半

左衛門狀

七通

持仕候。

一 殿様御代々御祈禱被仰付ニ付而、本多安房・横山々

城・奥村河内・横山大膳・奥村因幡・岡崎市兵衛・

葛巻藏人狀

四通

右衆徒老次第二預リ罷在申候。

由來御尋ニ付而申上候

覺

一 玉泉院様岩峯寺御社壇ニ御參詣被為成候時之御印

老通

一 玉泉院様同御社壇ニ御計帳御寄進之御印

老通

一 玉泉院様同社壇ニ狛犬・袈裟袴帳御寄進之御印

老通

一 玉泉院様ニ御祈禱之御札指上申時分之御印 式通

一 御公儀々、岩峯寺御社壇ニ、計帳御寄進被為成候ニ

付、笹原織部・永原左京狀

老通

右六通之御印狀ハ、立山七社座主之内大宮座主円光坊所

立山別當岩峯寺  
貞享貳年十一月廿七日 衆徒中

不

富

一立山御本地地芦峯中宮開關毘堂并大宮兩社、奉崇者天神七代之内伊弉諾・伊弉冊之兩尊奉勸請、其外若宮天之手力雄命、兩社御神奉始、以上百二十末社者、日本第一大梁正一位兼殿立山大權現。奉拜御毘御本地ハ、仁王四十二代之御門文武天皇御取繪奉始、左右大和姫・日高美兩尊之後繪、以上三尊奉始、日本六拾六ヶ国一尊宛、右三尊之左右ニ六拾六尊之御毘安置仕、則式拾一堂伽藍靈仏ニ御座候御事。

一立山七千八社之大道場。依之先年者、立山之末社文殊寺・森尻日中寺・大伝寺并坊ヶ原岩峯寺・芦峯寺以上七ヶ所之衆徒・社人、毎年六月十二日芦峯大宮講堂へ集

リ、大御祈禱仕内、十四日・十五日兩日、擇吉日良辰、定大祭礼等奉勸修來候之処、就中右七ヶ所之内五ヶ所者退転申故、中古以來者、芦峯・岩峯兩寺衆徒・社人、右大宮講堂ニ而、其社式御作法、毎年無怠慢、今以勸行等仕來候御事。

一 毎月御祈禱之後、朔日・十五日・廿八日、月三日宛、大宮講堂（衆徒・社人集、御祈禱相勤、殊正五九月者、朔日七七日籠仕、致御祈禱候。其上四月八日七七月十六日迄百日之間、志貴山・金峯山之行を、佐伯之宮ニ而、衆徒・社人耆人宛代々御祈禱仕候。蜷堂執行之後ハ、則毎朝寅ノ一天、御供奉備、燈明ヲ立、天長地久・天下泰平・国主安穩奉祈、天下無双之靈社・名仏・名神に而御座候。中比志賀都四糸之郡主越中守佐伯有頼、承文武天皇之御勅、大宝元年<sup>ハ</sup>芦峯惣社伽藍ヲ建立シ、至今年九百八十三年。其後佐伯有頼深禪定ニ入、則廟所御座候。右之趣高徳院様被聞召上、天正拾六年十一月、御社領高百俵、御朱印を以御寄進被成下置、其以後 瑞龍院様・微妙院様御代々も、右筋目之通、御朱印并御判之物、共ニ

三通、衆徒・社人致頂戴、別紙目錄之通所持仕候御事。

一 慶長拾九年八月、芳春院様・玉泉院様、中宮蜷堂ニ御參詣被遊御逗留、蜷堂御宝前之幡・天蓋・膝付・御召衣被仰付、并御宝前之橋ニ布橋ヲ御掛、御渡被成候御事。一 寛永元年ニ從 微妙院様御局<sup>ニ</sup>被仰渡、寿福院様為御寄進、中宮蜷堂御宝前之幡八流・天蓋・三尊之御召衣、其上為御供代金子式枚被成御寄進、衆徒・社人頂戴仕候御事。

一天正十八年<sup>ハ</sup> 高徳院様・瑞龍院様・微妙院様・寿福院様・当殿様、御代々芦峯蜷堂・同瑞垣・帝釈堂・閻魔堂・経堂・地藏堂・鐘樓堂・大宮・同拝殿・若宮・佐伯宮・講堂、度々御造宮被遊、今以破損修理被仰付候御事。一 先例<sup>ハ</sup>御代々於唯今、年頭・歳暮・御卷数上ケ來申候。則 高徳院様御朱印御書老通、微妙院様御書六通、被為成下、所持仕、別紙目錄記上之申候。

一 芦峯中宮社例神事祭礼、無怠慢相勤、毎度年頭・歳末ニ御卷数、衆徒・社人之内代リ<sup>ク</sup>耆人充、御当地罷越奉献之。年頭御目見者、衆徒之内代々耆人充御礼、今以

申上候御事。

一 有頼自作之縁起御座候処、燒失仕、其以後者写迄所持仕来候。別当山中舘堂元祖、為佐伯有頼朝臣。私共代々衆徒・社人佐伯氏<sub>ニ</sub>改、子孫<sub>ニ</sub>伝神職、相統神事、祭祀・御祈禱執行仕来申候。古来<sub>ハ</sub>私共遺跡、隨長官・座主・院主、諸事遂作法、今以相勸申候御事。

右之通御座候。此外由来縁起無御座候。

御代々御寄進状・御書・御印之物、別紙目錄記上之申候。

越中新川郡立山青峯庄中宮舘堂天台宗  
貞享貳年九月晦日

衆徒中  
社人中

不——

富——

覚

一 高德院様御朱印御寄進状

一 瑞龍院様御判御寄進状

一 微妙院様御判御寄進状

宅通

同

同

一 高德院様御朱印御書

一 微妙院様御判并御印之御書

ノ拾通

右之通所持仕候。以上。

越中新川郡立山青峯庄中宮舘堂天台宗  
貞享二年九月晦日

衆徒中  
社人中

不——

富——

就由来御尋ニ申上候

一 当社開闢者、微妙院様御建立、御神躰御影<sub>大藏丞筆</sub>

<sub>野探幽齋書付箱蓋裏ニ御座候。清岩和尚外題、玉丹和尚添扶御座候。</sub>

明曆三丁酉年遷宮、至当年廿九年ニ成申候。御社領百石并祠堂銀六貫目、從微妙院様

御寄附被成候。右之外縁起・由来書等所持不仕候。別紙

目錄之通、古筆之物共、致拝領所持仕候。以上。

貞享二年六月七日 小松天神松雲庵 能順

不——

富——

同

六通



## 覺

御社領所附御印	堀川院百首	筆者不知	忝冊
北野天神緣起第三	桐火桶	連歌師專順筆	忝冊
金天品第廿三	僻案抄	同 宗砌筆	同
金剛頂經	伊勢物語	青山水石筆	同
經 奧口不足	宗長連歌合	連歌師壽慶筆	同
經 魚養筆	西行物語	園基福筆	同
假名御文掛物	和歌大綱	筆者不知	同
渡唐天神御影	和歌秘蜜相承	筆者不知	同
本院樣御細工	三十六人歌仙歌	筆者不知	同
三社詔宣	連歌發句附句	松原伊賀守賢盛筆 一條權閤御加筆	忝卷
扇地紙和歌掛物	連歌發句仕樣書物	連歌師兼載筆	忝卷
声字実相之掛物	逍遙院殿悼和歌	同 周柱筆	忝卷
立像人丸掛物 <small>和歌之讀</small>	連歌不審書	筆者不知 連歌師	忝卷
五字題短尺 <small>歌無之</small>	焰魔天次第	筆者不知	忝冊
御文	童子經作法	筆者不知	忝冊
利長公御筆	石摺		忝帖
百首和歌	聯句懷紙	天龍寺策彦筆	忝卷
五十首和歌	和漢聯句	上冷泉為広卿筆	忝卷
百首和歌			
連歌新式			

一	連歌懷紙	近衛殿菟山御筆	老卷
一	同	正親町公躬卿筆	百韻不足
一	同	速水左衛門尉友益筆	百韻不足
一	同	連歌師專順筆	百韻
一	同	同 紹巴筆	百韻
一	同	同 同筆	百韻不足
一	同	等專筆	百韻
一	同	同 昌叱筆	百韻不足
一	同	同 理成筆	百韻不足
一	同	同 玄仍筆	百韻不足
一	同	同 行動筆	百韻
一	同	同 萩野宗現筆	百韻
一	硯文台		式組

右之通從 微妙院様致拝領、所持仕候。以上。

貞享貳年六月七日 小松天神松雲庵 能順

不  
富

由来就御尋ニ申上候

一石川郡大野庄寺中村之神社者、佐那武大明神・神明・八幡・蛭兒・荒御魂・春日之社ニ而御座候。神明・八幡・春日之三社者、往古ヨリ加賀郡大野庄真砂山竿林ニ御鎮座ニ而、開基之時代慥ニ知レ不申候。佐那武大明神者、人皇四拾五代 聖武天皇之神龜四年六月十五日、奥州之住人佐那与申仁、海中より奉守上候而、佐那則御杖代と成、竿林之社地ニ奉鎮申候。就其同五年之春、祠官参内仕、右之旨奏聞申之所ニ、從 聖武天皇佐那武大宮大明神与可奉崇之由、勅定御座候と申伝候。然後天平元年御造<sup>(智)</sup>榮御座候付而、古来々天平元年ヲ当社之開基与申伝候而、至当歲九百五十八年ニ成申候。延喜式神名帳ニ、加賀郡大野湊神社のせられ候ハ当社ニ而御座候。然其中古ニ郡境替リ申故、大野庄者只今石川郡之内ニ而御座候。其後從 天子度々御造榮御座候処ニ、後深草院建長之頃、宮社并神宝等。不殘燒失仕候ニ付而、竿林八町東唯今之地ニ奉遷候由申伝候。其後当国一揆之乱ニ及大破候ヲ、天正十四年從 高德院様再興被為仰付間、宮腰村之田地之内

を以、式町之所御寄進被遊候而、大野庄十五村として可令馳走之旨、御印被下候。其後慶長九年ニ從 瑞龍院様御修理被為仰付候。其後寛永十六年、從 微妙院様御宮御建立被為仰付候。至当御代、只今之拜殿御建立被遊、今以御宮不殘度々御修理等被為仰候。

右由来如此御座候。御綸旨・御寄進狀・御制札・御書等、別紙目錄ニ記上申候。以上。

貞享二年七月廿三日 加州石川郡寺中神主

河崎和泉守  
河崎出羽守

不——

富——

覚

一 御綸旨

元弘三年七月十五日  
同 七月廿日

一 利家様御寄進狀

天正十四年正月廿一日社領付并産子村付

一 利長様御印

付但御祈禱御札上申剋、成被為下候。

二 通

式 通

二 通

一 利常様御繼目御寄進狀  
寛永十五年十二月十一日 一通

一 利常様御印但御祈禱御札上申剋成被為下候。 三通

一 利家様御制札 一通

一 当殿様御庖瘡被遊候剋、御祈禱御札上ケ申時、今枝

民部殿より折紙 一通

一 利常様御代ニ於社頭・境内殺生禁断御制札 一枚  
右之外所持不仕候。以上。

貞享二年七月廿三日 加州石川郡寺中神主  
河崎和泉守  
河崎出羽守

不——

富——

由来就御尋ニ申上候

一 当社開闢者、人王八代孝元天皇御宇、能登国能登郡所口大己貴尊・素盞鳴尊・奇稻田比咩三社同殿御鎮座、氣多本宮与申候。又ハ能登生国玉神共奉申候。貞享貳年迄凡千八百九拾余年。同拾代崇神天皇御宇、御造宮勅使御

下向之申伝候。貞享貳年迄千七百八拾余年。同八拾五代後堀川院御宇、嘉禄年中御再興之由申伝候。貞享貳年迄凡四百六十余年。同九拾五代後醍醐院御宇御再興。貞享貳年迄凡三百六拾余年。同九拾六代光厳天皇御宇、建武三年八月廿七日源頼朝公御式目御判之物尅通所持仕候。

貞享貳年迄凡三百五拾年。同九拾七代光明院御宇、貞和五年八月八日、以宣旨国宣、前肥後守忠澄卿卷物一通所持仕申候。貞享貳年迄凡三百三拾七年。同百六代後奈良院御宇、弘治三年三月十三日、畠山義綱公社領御判物一通所持仕申候。貞享貳年迄凡百貳拾九年。但畠山殿御代々社領御造宮井所口御馬揃之御神事等、御座座候与申伝候得共、謙信一乱之時分致破却、棟札等、無御座候。

一当社能登神之祭礼神事、年中ニ七拾五度、両神主無懈怠相勤申候。其上毎年二月中申日、羽咋郡一宮神輿御幸、祠官等不残御供ニ而、当社之拝殿ニ而奉昇居、一ノ宮・所口両社之社家致会座、三日之御祭礼相勤来申候。古来ハ每度勅使御立、中比中納言家持卿御下向之時も御座候と申伝候。

一大納言様本七尾御本城々、天正拾七年ニ所口宮山ヲ御城郭地ニ御見立被為成、氣多本宮ヲ明神野へ御遷、社頭御建立被為成、明神野荒地開次第、御社領ニ可被成旨御朱印成被下、則高貳拾三石御社領ニ御付被為成候。其砌、謙信一乱以後神主中絶仕候ニ付、所口村百姓中支配仕候処、慶安三年ニ小松中納言様諸社領御改被為成候時分、右百姓宮之入用等も不仕候故、貳拾三石之社領被召上候。御朱印ハ所口村百姓方ニ于今所持仕申候。慶安三年十月廿八日之日付、從中納言様高拾石并兩神主居屋鋪・御社領之御判之物一通、両神主致頂戴所持仕申候。

一能登郡之内貳拾五ヶ村、神社数三拾一社、私共両神主持分ニ而、古来々毎年御祭礼・神事等相勤申候。右之宮地者、古来々之宮地ニ而御座候。

右之通古来々申伝候趣、有増書上申跡、相違無御座候。国宣御卷物并源頼朝公御式目・畠山社領御寄進狀・小松中納言様御社領御判之物、別紙目錄ニ記上申候。以上。

能州能登郡所口神主  
貞享貳年八月廿三日

舟木豊前守  
同神主  
舟木相模守

不——  
富——

覺

一 国宣

一 源頼顯公御式目

一 皇山義綱公御社領

一 小松中納言様御社領

右之通所持仕申候。以上。

能州能登郡所口神主

同

神主

舟木豊前守

舟木相模守

不——

富——

由来就御尋ニ申上候

一 加州加賀郡黒津舟小浜神社開闢之義、人皇四拾四代  
元正天皇養老二年六月十八日勸請仕候。今年迄九百六十

七年ニ罷成候。然共縁起無御座候故、委細不奉存候御事。

一天正拾壹年、從 太閤様黒津舟於小浜之神社禁制御判之御札被為下置、所持仕候御事。

一 高德院様御代天正拾四年ニ、黒津舟明神之御本社尅間四面、神明御本社尅間四面、拝殿三間ニ三間半、御供所式間ニ三間并式間、鳥居三ヶ所御再興被為仰付候。同年黒津舟明神社、從 高德院様為御社領、加賀郡橋粟ヶ崎村御田地之内を以、田貳町之所永代御寄進被為成候。御印并黒津舟之近所三拾九ヶ村産子付之御印致拝領、所持仕候。右産子之村ニ御座候社人之分、私触下ニ御座候御事。

一 瑞龍院様御代、慶長三年御宮破損、御修理不殘被為仰付、并本多安房殿・横山々城殿・奥村河内殿御連判ニ而、禁制之板御札被為下置候処、大風ニ割申候故、其写所持仕候御事。

一 瑞龍院様・微妙院様ニ御祈禱之御札等指上申上、度々御書御印之物被為成下、別紙之通所持仕候御事。

一瑞龍院様御不例之剋、早速御快氣被為成候様ニ御祈禱被仰付、横山々城殿・笹原出羽殿・奥村河内殿御連判之御願状彙通、別紙之通所持仕候御事。

一微妙院様御代寛永十五年、明神之本社三間社三棟作ニ御建立被為成候。其節為御加増、石川郡三口村御田地之内を以、田老町之所御寄進被為成、合三町之御一行頂戴仕候。然所右三町之内老町ハ、御宮為御修理料御除置被為成、今以御堂形ニ納リ申候御事。

一当御代寛文貳年、御宮披損御修理不殘被為仰付候。同八年明神御本社・神明御本社廻柵被為仰付候。其以後御宮破損仕候時分、度々不殘御修理被為仰付候御事。

一御宮破損御修理被為仰付、出来仕候時分ハ、御遷宮御能、跡々被為仰付候。延宝八年御遷宮御能之時分、御奉行一色瀬兵衛殿・村上助右衛門殿・御足輕三拾人并能役者等迄、從 御公儀様被為仰付候御事。

一私裁許之持宮加賀郡橋栗ヶ崎村八幡宮開闢之義ハ、明德貳年八月十六日勸請仕候由申伝候。今年迄貳百九拾七年罷成申候。縁起・由来等無御座ニ付委細不奉存候。当

御代寛文拾老年、橋栗ヶ崎村ニ御旅屋被為仰付候剋、右八幡宮屋舖ニ構申由ニ而、御旅屋老町斗脇へ所替被為仰付、則老間社并老丈鳥居老ヶ所御建立被為成、八幡宮屋敷廻リ苗松貳百本余御植付被為仰付、毎年八月十六日御祭礼、今以相勤、御祈禱執行仕候御事。

右由来如斯御座候。御書・御印之物、別紙目錄之通所持仕候。以上。

加州黒津舟小浜神社神主  
貞享貳年七月十八日 齊藤筑後守

不

富

寛

- 一 從 太閤様禁制御札御判御座候。 老通
- 一 從 利家様御社領御印并産子村付之御印 武通
- 一 利長様御代、本多安房殿・横山々城殿・奥村河内殿御連判之禁制板御札之写 老枚
- 一 利長様御書但御祈禱御札上申剋、被為成下候 三通

一 利長様御代、横山々城殿・笹原出羽殿・奥村河内殿  
御連判御願状 壹通

一 利常様御印但御祈禱御札上申剋、被為成下候 式通

一 從 利常様御社領御加増之御一行 壹通  
右之外所持不仕候。以上。

加州黒津舟小浜神社神主  
貞享貳年七月十八日 齊藤筑後守

不  
富——

由來就御尋ニ申上候

一 当社砺波郡松尾庄殖生八幡宮開闢者、人皇四十四代元  
正天皇之御宇、養老年御鎮座之由申伝候得共、伝記等炎  
失付、誰之勸請与申義不奉存候。寿永貳年木曾義仲北国  
発向之剋、当社八幡宮者、養老年中豊前国宇佐御鎮座  
之由、郷侍池田次郎忠康申ニ付、義仲社参願書ニ上指之  
矢取副、宝殿ニ献納、今以御座候。然者養老元年ニ至当

歳九百七拾年ニ罷成候。寛文八年ニ土師清大夫、古来  
之伝考縁起作被申候。天正年中從 瑞龍院様、御社領壇  
生村之内六拾俵之地御寄進被為成、御判物頂戴仕候。就  
中大聖寺御陣之剋、瑞龍院様御社参被為成、就御立願  
御宮御再興被為成候。慶長年中大坂御陣中、大御所様  
御父子様、且又 微妙院様、御三公様御祈禱、從 天德  
院様被仰付、則御札守并木曾義仲願書・矢柄、摂州五私祖  
父民部持参仕、將軍様五入御披見御札仕候。其趣 玉  
泉院様・千福殿・宰相殿を以申上候。年始之御礼をも上ケ  
申候所、玉泉院様御印被為成下、其外毎年正五九月御  
祈禱之御札上申節も、度々御印数通被為下、所持仕候。  
元和年中 微妙院様御繼目之御社領御印頂戴仕候。今以  
当殿様右之通被為下候。然者明暦貳年所免ニ御引直、  
四ツ壹歩ニ神納可仕旨、御年寄衆御判所附被下、自作ニ  
仕、余免米御納所上申候。

一 公方様御代々御誕生或御不例等之節、御祈禱当社五御  
家御代々様被仰付、御札上申候。勿論御家御代々様御  
祈禱被仰付、御年寄衆毎度之御状四十八通所持仕候。

宝永十年御宝殿從 微妙院様御再興被為成、并矢柄之繕被仰付候。且又願書之写千岳<sup>ニ</sup>被仰付候。正保年中 微妙院様御社參被為成、西尾隼人殿被仰渡、拜殿御建立、今以御宮御修理等每度被仰付、御遷宮之剋入用銀并御幕・白布等致拜領、正遷宮仕候。社地步數之義、谷峯御座候付、跡々<sup>ヲ</sup>知不申候。併屋敷境ハ紛無御座候。私居屋敷者、御社領地罷有候。 微妙院様小松<sup>ニ</sup>而、正五九月御祈禱之御札并御進物等、富田善左衛門殿御取次<sup>ニ</sup>而上申剋、每度之御印拾三通所持仕候。

陽広院様初而江戸<sup>江</sup>御免駕被為成候剋、御社參被為成、其後御入國之砌も御社參被遊、木曾義仲卿願書・矢柄之義、西尾隼人殿へ御尋被為成候。 当殿様御入國被為成候剋も毎年江戸御上下被為成候剋、御目見仕、為御初尾銀子老枚充拜領仕候。且又年頭之御礼も申上候。

一天正年中<sup>ニ</sup>、佐々内藏助成政卿<sup>ハ</sup>、御社領米五百六拾九俵老斗六升之折紙并記錄、老通所持仕候。永正年中連沼之領主遊佐新七郎慶親卿<sup>ハ</sup>、石段坂被致寄築、并砺波郡増山芹谷、婦負郡寒江村蓮台寺兩所之合戦、右遊佐慶

親卿<sup>ハ</sup>先祖共ハ感狀三通、新川郡於金山椎名右衛門大夫殿上杉謙信公と取合之節、私先祖上田石見守、椎名右衛門大夫殿立馳走仕<sup>ニ</sup>付、武田信玄<sup>ハ</sup>内狀老通、別紙目錄記上申候。

右之通御座候。此外寄進狀等所持不仕候。以上。

貞享貳年九月廿三日 壇生八幡宮神主 上田石見守

不  
富

覺

- 一 木曾義仲<sup>ハ</sup>願書 老通
- 一 且又上指之矢柄 老手
- 一 遊佐新右衛門慶親<sup>ハ</sup>感狀 三通
- 一 武田信玄<sup>ハ</sup>感狀 老通
- 一 佐々内藏助成政<sup>ハ</sup>御社領御寄進狀老通并記錄 老通
- 一 利勝様御社領御寄進御判之物 老通



一	利光様御継目之御社領御印	尅通	一	中村刑部丞殿・由比民部丞殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	横山々城守殿・本多安房守殿 <sup>〆</sup> 御状	十七通	一	横山々城守殿 <sup>〆</sup> 御状	四通
一	奥村河内守殿・奥村摂津守殿 <sup>〆</sup> 御状	式通	一	奥村因幡守殿・横山右近殿・津田内蔵殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	奥村因幡殿・奥村河内守殿・横山大膳亮殿 <sup>〆</sup> 御状	式通	一	葛卷蔵人殿・岡嶋市兵衛殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	横山々城守殿・奥村河内守殿・本多安房守殿より御状	尅通	一	堀田掃部殿・佐々伊左衛門殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	長九郎左衛門殿・小幡宮内殿・本多安房守殿より御状	尅通	一	横山大膳亮殿・奥村河内殿 <sup>〆</sup> 御状	三通
一	笹原出羽守殿・横山々城守殿・奥村河内守殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通	一	奥村因幡守殿・本多安房守殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	奥村因幡守殿 <sup>〆</sup> 御状	式通	一	前田出雲守殿・葛卷隼人殿・津田玄蕃頭殿・奥村河内守殿・横山左衛門殿・長九郎左衛門殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	横山々城守殿・奥村河内守殿・横山大膳亮殿・奥村因幡守殿・本多安房守殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通	一	松田甚左衛門殿・宮北喜平次殿・林与左衛門殿・平野忠左衛門殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	奥村河内守殿・葛卷隼人殿・前田出雲守殿・津田玄蕃頭 <sup>〆</sup> 御状	尅通	一	葛卷隼人殿・恒川監物殿・津田外記殿・能谷勘解由殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	奥村内記殿御状	尅通	一	葛卷蔵人殿・茨木右衛門殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通
一	今枝民部殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通	一	奥村玄蕃殿・有沢孫作殿・加次屋八郎右衛門殿・山路九郎兵衛殿・村田半助殿・横山右近殿 <sup>〆</sup> 御状	尅通

一 福田平左衛門殿御狀

老通

一 御局御狀

老通

一 吉田御本所裁許狀

老通

右之通所持仕候。已上。

貞享貳年九月廿三日 殖生八幡宮神主 上田石見守

不——

富——

由来御尋ニ付申上候

一 高岡稻荷神社開闢者、瑞龍院様高岡御在城之剋、於御城中希有之義有之ニ付、別而被為成御崇敬、御子孫為御繁昌、京都稻荷慶長拾五年ニ始テ此地勸請、杜御建立被為仰付候。至当年七拾五年罷成申候。御遷宮之時節、神輿・同御道具御寄進ニ而、于今所持仕候。御遷宮入用之道具品々并御供米、被為成御寄進、右何。瑞龍院様御印所持仕候御事。

一 從 瑞龍院様拝領仕候杜領地者、稻荷始テ御建立之時分ハ、宮地之歩付も無御座候、此間稻荷之宮地与境被為仰付候。其以後被下候御印ニも、先年被付置候稻荷杜領地、前之通与御印被下候故、作所ニ仕来候。上関村定之内、杜廻リニ而、百姓分とハ境立居申候所ニ、寛永十三年前波加右衛門殿御檢地草高貳拾八石余、御打立被成、寛永十四年ニ本多古安房殿・横山古山城殿御奉を以、右貳拾八石余之内無地貳千歩毛付三千歩之所、稻荷・八幡・加久弥社・大木之社・熊野社五社ニ御寄進被為成候旨、御折紙所持仕候。残而拾五石七斗被召上、潦分高之内ニ罷成候ヘ共、稻荷杜廻リニ而御座候付、今以境立御座候。承応三年ニ從 微妙院様、右三千歩毛付之所拾貳石五斗之御一行頂戴仕候御事。

一 明曆貳年ニ 微妙院様江戸御発駕之剋、高岡瑞竜寺御墓御參詣被為成候処、稻荷杜御目通ニ而、御尋被為成候折節、吉田瀬兵衛殿御墓作事御奉行ニ而、様子被存候故、瑞龍院様御建立之稻荷之由被仰上候ヘハ、先祖神主伊豆ヲ高岡御旅館ニ被召出、様子委細ニ可申上旨被仰出

候故、右 瑞竜院様御建立之段々、又ハ社領被召上、只今稻荷も草高式石余なりてハ社領無御座由申上候。又修理之義奉願候へハ、御大工山上善七郎被召出、高岡ニ而御建立之御指図被為仰付候へ共、江戸御発駕故、其通ニ罷成申候。又御帰国之節高岡御旅館ニ神主伊豆被召出、稻荷之社追付御建立可被為仰付旨、被仰出候へ共、其後御他界故、于今其通ニ罷成申候。古ハ瑞竜院様被為仰付候社頭之古柱・古戸・古木等、多于今御座候。只今ハ自分として小社ニ仕修理仕候。古ハ之通毎年御祭礼相勤、御祈禱仕、今以正五九月御札指上申候。

御代々御書・御印所持仕候御事。

一高岡加久弥之神社者、東宮・西宮と申、二座御座候。

古ハ高岡立不申以前ハ、関野と申野ニ而御座候と申伝候。中比ハ神明宮とも申ならハし候。宝龜元年ニ社相立、至当年九百十二年ニ罷成申候。延喜式内之神社之由申伝候。延宝六年七月十日ニ 当殿様江戸御帰城之刻、高岡御旅館ハ私親伊豆被召出、奥村兵部殿御奉を以、越中古社延喜式内之神社御尋之刻も書上申候御事。

一高岡大木之社者、加久弥之神社別宮之由御座候。御鎮座年号知不申候御事。

一高岡熊野社者、只今御馬出町之坂之高、いにしへ升形御座候所ニ、古ハ社相立有之由御座候へとも、高岡御在城之節、御城内ニ罷成申ニ付、只今之宮地ニ社移申候。

高岡御在城之刻ハ、御祭礼之時分ニ神輿御城中迄御廻リ被成、御祈禱御座候由申伝候。今以御祭礼之時分ハ、高岡町中ニ神輿御廻リ被成候。御鎮座年号知不申候御事。

一高岡八幡宮者、慶長十四年ニ瑞竜院様御意を以、守山八幡宮勧請仕候。右拾式石五斗之社領ハ、右五社へ御寄進被為成、御折紙所持仕候御事。

一越中射水郡神社二上山権現ハ、延喜式ニ御座候越中国三拾四座之内、大一座ニ而御座候。私家之先祖二上山社家ニ而毎年触下社人廿人充召連、御祈禱相勤、御代々御札指上申候御事。

一越中射水郡守山之内海老坂八幡宮ハ、金沢卯辰之八幡・高岡八幡右二ヶ所之本社ニ而御座候。この八幡宮ハ、瑞竜院様守山御在城之節ハ御家御武運之守護神と被為成

候。於今八月十五日ハ私触下社人中隔番ニ毎年召連、御祈禱相動、御代々御札差上申候。古ハ神保氏春殿守山御在城之節社再興被成、其以後瑞竜院様御在城之節も、御修理可被為成候由申伝候。只今ハ及大破申ニ付、右八幡産子共小社仕、致修理候。古跡故大キ成神木等多御座候。先年瑞竜寺御建立之時分、從微妙院様御用木ニ右八幡宮林之檜被召上候。縁起等無御座ニ付、御鎮座年号知不申候。御事。

一越中射水郡放生津八幡宮ハ、其古ハ大社ニ而、北条時政公再興被成候由申伝候。又放生津ヲなたと申候得共、八幡宮ヲ時政公再興被成候而より、此浦之名ヲ、八幡宮之祭八月十五日幸放生会ヲかとり、放生津と御改被成候由申伝候。右之節ハ社人等多御座候ヘ共、放生津城主、越後謙信と合戦之節、何も焼亡シ、縁起等も無御座ニ付、年号知不申候御事。

一越中射水郡戸破村加茂大明神ハ、山城ノ国加茂ノ勸請之由申伝、別宮・末社等相見申候社之様子なとハおひたしく候。亦神前義式山城之國加茂之様ニ近年迄流鏑馬

等相動候得共、唯今ハ神事御祈禱迄相動申候。建立年号知不申候得共、何茂古所大社之例ニ御座候。延宝六年七月十日ニ当殿様御帰城之剋、高岡御旅館ニ而、私親伊豆被召出候而、奥村兵部殿御奉を以、加茂之社之儀御尋ニ付、右之段々書上申候御事。

一私先祖豊後ハ、瑞竜院様守山ニ御在城之剋ハ、海老坂八幡宮社地之内ニ居住仕罷在申候。瑞竜院様ノ度々被召出、御城中ニ而御祈禱仕、銀子・御小袖・御帷子等拝領仕候。其後瑞竜院様富山ニ御在城之節茂、私先祖被召連、富山ニ居住仕罷有申候。富山ノ高岡ニ御在城之節、又御供仕、只今致居住候所を拝領仕罷有申候。高岡御在城之剋も、御城中ニ被召出、度々御祈禱被為仰付、色々拝領仕候。神前ニ着仕申装束も拝領仕、于今所持仕候御事。

一私家之儀ハ越中一國之社家頭ニ為被仰付、射水郡・砺波郡・新川郡社人中、今以才許仕候。則從瑞竜院様被為仰付候御印所持仕候。同御代々御祈禱之御札指上、年頭之御札申上候。御代々御目見仕、正五九月御札指上申

候。右何も御印被成下所持仕候。私親伊豆守遂昇進、禁中<sup>も</sup>口宣案所持仕候。吉田本所<sup>も</sup>才許状所持仕候御事。右私支配仕社之内、由來知申分書上申候。御印・御寄進状等別紙目錄指上申候。以上。

貞享貳年六月廿三日 越中高岡

稻荷神主  
関忠次郎

不——

富——

覚

- 一 口宣案 壱通
- 一 吉田本所朱印 三通
- 一 利長様御印 壱通
- 一 同御代御寄進之神輿 壱社
- 一 同御代社遷宮之入用被為上候目錄 壱通
- 一 同御代御供米被為上候御印 壱通
- 一 同御代御礼上申時分被下候御印 壱通
- 一 同御代装束拝領仕候御印 壱通

一 微妙院様御一行 壱通

一 同御代御印 壱通

一 同御代進物指上申剋被下候御印 六通

一 本多古安房殿・横山古山城殿御判物 壱通

一 奥村因幡殿・津田玄蕃殿・伊藤内膳殿・菊池大学

殿・前田対馬殿御判物

右之通所持仕候。以上。

貞享貳年六月廿三日 越中高岡

稻荷神主  
関忠次郎

不——

富——

由來御尋ニ付申上候

一 白山権現者天地開闢之元祖也。但天柵銚差下シ、蒼浪搜給、銚滴堅鳴也。則今淡路国是也。其後大八嶋作給。此中ニ大山有、禪頂之神と、大永八年白山ニ神書在之候。一 白山者養老元年泰澄大師開基。至今年九百六拾九年罷

成申候。

一白山東神主者、荒御前權現、他身建部建大夫朝臣と、神書有之候。

一白山西神主ハ、葛原親王末道上道朝臣、系図御座候。

一自 微妙院様、慶長拾六年 神領七拾四石 御寄進被為成、長吏私共拜領仕罷有申候。

一居屋敷之儀者、先規々四段之所、拾人神主罷有申候。

右由來如斯御座候。御寄進狀・御印之物、別紙目錄之通所持仕申候。以上。

貞享貳年七月廿三日

下白山神主

掃部

同神主

主計

同

弥兵衛

同

吉佑

同

勘解由

同

藏人

同

平右衛門

同

式部

同

次郎大夫

甚七郎

不

富

覚

一 利光様御判御寄進狀

但慶長拾六年神領七拾四石御寄進、御充所長吏同神主被為成下候。

老通

一 利長様御印御書

但禪頂へ七人參御祈禱被為仰付、御充所奥村伊予殿と御座候。

老通

一 利常様御印御書

但御礼上申付、富田善右衛門殿と充所被為成下候。

三通

一 利常様御印御書

但御札進物上申付、富田善右衛門殿と充所被為成下候。

老通

右之外所持不仕候。以上。

貞享二年七月廿三日

下白山神主

掃部

同神主

主計

同

弥兵衛

不  
—  
富  
—

同 同 同 同 同 同 同  
吉佑  
勘解由  
藏人  
平右衛門  
式部  
次郎大夫  
甚七郎

当社由来御尋ニ付申上候

一金分・高座両社草創之義者、仁皇十代崇神天皇之御宇  
ニ而、至当歳千七百八拾貳年ニ罷成申候。

一私先祖之義、往古八金分・高座両社神主六人之内、頭  
役相勤罷在候処、元龜年中信長公比叡山御焼失之剋、当  
社別当天台宗ニ而御座候故、堂社致衰微、別当・神主中  
式諸国へ退散仕成、百姓等ニ罷成申候。其内別当十二坊

之内、増長坊一坊、神主八六人之内大宮耄人相殘罷在候。  
御代々、私先祖今以年頭之御礼申上候。

一天正拾四年、当社為御社領、從 利家様田地五町御寄  
進之御一行御印先祖頂戴仕候。別当高勝寺一所ニ御印被  
下候ニ付、御印之物高勝寺方ニ御座候。右御社領五町之  
所草高ニ仕、七拾五石御座候内、式拾五石者別当領、五  
拾石者私先祖代々拝領仕罷在候処、横山式部殿・笹原織  
部殿寺社御奉行之時分、社領地半納、当社修理料ニ上納  
被仰付、大宮五拾石之内式拾五石、寛文元年々当社修理  
料ニ每年上納仕候。

右之通由来如此御座候。此外御先代之御書等別紙目錄ニ  
記上之候。以上。

能州三崎金分高座神主  
貞享貳年五月十七日 大宮

不  
—

富  
—

覚

一 大納言様御違例之剋、修理様々御祈禱被仰付候御

## 書

老通

一 古肥前様<sup>五</sup>御祈禱御札指上候ニ付御書

式通

一 中納言様<sup>六</sup>御所様御座前之御祈禱被為仰付候砌、御老中<sup>七</sup>被下候御状

三通

一 小松<sup>五</sup>御祈禱之札指上候目録御印之物

四通

一 当殿様御袍瘡被遊候砌、致御祈禱候御札上候ニ付、

寺社御奉行<sup>八</sup>被下候御状

老通

一 長谷部頼連<sup>九</sup>寄進状

老通

ノ拾式通

右之通所持仕候。以上。

能州三崎金分高座神主  
貞享貳年五月十七日 大宮

不——

富——

由来御尋ニ付申上候

一 能州一宮氣多大神宮開闢者、仁王十代崇神天皇之御  
宇ニ御建立、勅倅管府滿珠鎮納之社ニ而御座候。至当年

千七百八拾貳年ニ罷成申候。

一只今之御本社并惣門門守者、永祿五年ニ畠山匠作源義  
綱御建立ニ而、至当年ニ百貳拾八年ニ罷成申候。一 相殿白山社・若宮社者、元龜三年ニ畠山次郎源義慶公  
御建立ニ而、至当歳百拾四年ニ罷成申候。一 講堂者慶長九年ニ利長様御建立ニ而、至当年ニ八拾貳  
年ニ罷成申候。一 拝殿者、承応三年ニ利常様御建立ニ而、至当年ニ三拾貳  
年ニ罷成申候。一 当社祠堂之義者、委延喜式神名帳ニ有之候。神主數從  
先規以來、時代ニより増減不定之由申伝候。爾ニ天正十  
年ニ從 利家様社領御寄進被為成候剋<sup>六</sup>大宮司神主・神  
子共ニ貳拾人御座候處、明曆三年ニ從 利常様社領御加  
増被為成下候砌、神主數御吟味之上を以、又貳人可相立  
之旨、津田玄蕃殿御奉ニ而被仰付、只今貳拾貳人御座  
候。則御一行寺社家一通ニ頂戴仕候御事。右之由来如斯御座候。  
御起御寄進状  
御帶御制札  
等別紙目録之通所持仕  
候。以上。



能州一宮神主頭  
貞享貳年五月十七日

桜井監物  
桜井權丞

不破彦三殿

富田治部左衛門殿

覚

縁起

貳通  
老軸  
卷

繪旨内  
貳通ハ気多社御鎮座御遷宮繪旨  
老通監物先祖受領之御繪旨

三通

利家様御書

貳通

利家様御寄進状

七通

利家様御制札

老枚

利長様御書

六通

利長様御寄進状

貳通

利政様御寄進状

老通

利常様御書

老通

吉江信景殿御寄進状

老通

管屋九右衛門長頼殿御寄進状

老通

一 横山々城守殿・笹原出羽守殿・奥村河内守殿御奉御

連状

一 横山々城守殿・本多安房守殿御奉御連状 貳通

一 奥村因幡守殿・本多安房守殿御奉御連状 老通

一 横山大膳亮殿・奥村因幡守殿・奥村河内守殿御奉御

連状 老通

一 横山々守殿御連状 老通

一 奥村因幡殿御奉状 老通

一 女中方さい殿・たつ殿御奉状 老通

一 富田治部左景政殿御奉状 老通

一 岡嶋喜三郎殿御奉状 老通

一 富田善左衛門殿御奉状 老通

一 中羽刑部丞殿御奉状 老通

一 奥内記殿御奉状 貳通

一 三田村作庵殿御奉状 貳通

一 岡田長右衛門殿御奉状 老通

一 堀田掃部殿・佐々伊左衛門殿御奉状 老通

一 野村治兵衛殿・小林又右衛門殿・長谷川大学殿御奉

御連状	壱通	修理様御書	壱通
富田藤右衛門殿・長田弥右衛門殿・三嶋久内殿御奉連状	壱通	御つほねさま御文	式通
神宝御刀御拵付而、岡嶋市郎兵衛殿・葛巻藏人殿御奉御連状	壱通	せんふくさま御文	式通
横山々城守殿御判物	十通	畠山義綱様御書	三通
富下清殿御判物	壱通	網盛様御返報状	壱通
横山左近殿御判物	壱通	土肥但馬守様御寄進状	壱通
右六拾壱通本紙桜井監物方ニ所持仕候。		三宅慶甫殿御寄進状	壱通
覚		左衛門尉殿・春宗殿御寄進状	壱通
気多社忘記	壱冊	奥村長兵衛殿御奉状	式通
気多社御油来記 <sup>(中)</sup>	壱卷	奥村長兵衛殿御添状	壱通
関東和与状之安文写 <sup>(孝)</sup>	式卷	山伊折殿御奉状	壱通
利家様御書	拾壱通	岡長右衛門殿御添状	壱通
利家様御禁札	壱枚	吉江信景殿御奉状	壱通
利勝様御書	壱通	横山々城殿・本多安房殿御奉状	壱通
利政様御書	式通	田中猪兵衛殿御奉状	壱通
		奥村河内殿・奥村伊与入殿御奉状	壱通
		岡備中守殿御奉状	壱通

奥内記殿御奉状

式通

一 景庵殿・堯知殿・長盛殿御奉状

一 式通

一 不破伝兵衛殿・中嶋九郎兵衛殿・服部五衛門殿御奉状

一 式通

一 六ゑもん殿御奉状

一 式通

一 奥村摂津守殿・奥村河内守殿御奉状

一 式通

一 平加堯知殿御奉状

一 式通

一 奥村河内殿御奉状

一 式通

一 奥村因幡殿御奉状

一 式通

一 奥村河内殿御添状

一 三通

一 庄市信殿御奉状

一 式通

一 奥村河内殿・横山々城殿・本多安房殿御奉状

一 式通

一 中村刑部丞殿・由比民部丞殿御奉状

一 式通

一 不破源六殿・石黒覚左衛門殿御奉状

一 式通

一 横大膳丞殿御奉状

一 式通

一 沢崎殿御奉状

一 式通

一 小林太郎兵衛殿御奉状

一 式通

一 由比民部丞殿御奉状

一 式通

一 西村藏人殿御奉状

一 式通

一 服部五右衛門殿・中嶋九郎兵衛殿御奉状

一 式通

一 三田村作庵殿御奉状

一 式通

一 松原門三殿御奉状

一 式通

一 中九郎兵衛殿・前伝兵衛殿・服五右衛門殿御奉状

一 式通

一 長九郎左衛門殿御返報状

一 式通

一 霧見閑斎殿御奉状

一 式通

一 三輪長盛殿御奉状

一 式通

一 富田五兵衛殿・稲野八左衛門殿御奉状

一 式通

一 菅屋九右衛門尉殿御奉状

一 式通

一 稲左近殿御奉状

一 式通

一 井上権左衛門殿御奉状

一 式通

一 瀬川五兵衛殿・長谷川大学殿御奉状

一 式通

一 岩越小兵衛殿御奉状

一 式通

一 松田与兵衛殿・大西宗左衛門殿御奉状

一 式通

一 温山孫基殿御奉状

一 式通

一 松田与兵衛殿・大西宗左衛門殿御奉状

一 式通

一 松村与兵衛殿御奉状

壺通

貞享貳年五月十七日

桜井監物

一 才川神明御託宣有之ニ付而、御つほねさまより御意ニ

壺通

不

桜井権丞

而中村刑部丞殿御奉状

富

一 才川神明遷宮ニ付、御つほねさま御意にて福田四

郎左衛門殿御奉状

式通

覚

一 才川神明御遷宮ニ付讃岐状

壺通

一 利長様御寄進状

壺通

一 氣多大神宮之御贊獵舟ニ付、かい役御尋ニ付、近藤

壺通

一 利長様御制札

壺通

一 覺左衛門殿御添状

壺通

一 利光様御寄進状

壺通

一 氣多大神宮之贊獵舟ニ付、近藤角左衛門殿御添状

壺通

一 利光様御制札

壺通

一 氣多大神宮贊獵舟かい役御赦免之旨近藤角左衛門殿

御奉状

壺通

一 利常様御寄進状

壺通

一 山鈴左門殿御奉状

壺通

一 利常様御法式

壺通

一 横爪縫殿介殿・生嶋主計殿御奉状

壺通

右百三通之御本紙桜井権丞方ニ所持仕候。以上。

都合百六拾四通

浄土真宗越中古国府勝興寺由来

右之外所持不仕候。以上。

能州一宮神主頭

当寺創建者、人皇百四代後土御門院文明第四<sub>壬辰</sub>曆、大谷松願寺親鸞聖人第八世蓮如法印大僧都、為念仏弘通北国

右六通神宮社僧中一通ニ致頂戴、御本紙長福院方ニ預リ

在之申候。

順勸、当国砺波郡蟹谷庄於土山一字建立、施化利生。二男蓮乘受法哲令住職。蓮乘帰京、重蓮如第四男蓮誓法印大僧都下向在院之内、同郡高木場井中田於兩所仏閣令問答。其後安養寺村移敷地、四代実玄權大僧都在住之時、本願寺九世実如法印大僧都、以直筆、督法流邪正、僧侶随前来法式、於諸事異端者、当寺專批判、大破之砌、北国七ヶ国下流可令加力旨三ヶ条之制法。就中、五代顯栄法眼、六代顯幸法眼權大僧都、兩代之内及乱世、安養寺村立離、所々卜居。厥后成政領内望坊地。成政以折紙守山麓古国府寺院再興。神保安芸守氏張対一宗寺庵可加助力条一札添、天正十二<sup>甲</sup>曆、府分一円氏張寄附。同十三<sup>乙</sup>曆、從 太閤秀吉公禁制御朱印、大納言利家公<sup>五</sup>添状有。同十六<sup>戊子</sup>曆十月朔日、前田孫四郎利勝、於境地之辺百俵糧料寄進。元和第四<sup>戊午</sup>曆十二月廿一日、從中納言利常公七拾五石御印并府分諸役免許。寛永十九<sup>壬午</sup>曆及破損、從 利常公被加修理。本願寺当十一代宗督之義<sup>三</sup>付、叡慮之上、顯如大僧正三男准如、本願寺相伝。依之顯如嫡男教如企別派、一流之緇素騒動。勝興

寺与力別心。此時八代顯称法印大僧都・九代准教二代之間、法式乱、剩無住及寺断絶所、正保三<sup>丙戌</sup>曆本願寺十二世准如大僧正第六男光昌院良昌、為中興入院。從 利常公、於矢田村、先知合二百石被寄之。同第四<sup>丁亥</sup>曆仲春、伊藤内膳以御領、諸宗檀越就可令助成、勸披調。自其已来、至今時、品々蒙厚情。僧俗之縮、至若顯宗祖之本意、五乘齊入真門、開本願弘誓真道、示乱漫之凡愚引入。是併非国主政德者、豈何遂鄙懷哉。依略由来記。右当寺發起文明四年、当年迄二百十余年、蓮如法印以来十一代相統、此外由来無御座候。縁起者為宗風令遠慮候。已上。

貞享二年二月廿八日

勝興寺

寂寂聖

不——

富——

就御尋申上候

一当寺由緒・旧記之義者、後醍醐天皇嘉曆三年給摩頭

山国泰寺号、尊氏將軍庄園數ヶ所ヲ被為寄附、伽藍御造  
 官被為成。其後光明帝曆應二年ニ、日本國中ニ為御祈禱  
 所、安国寺御造官之節も、越中には国泰寺有之候故、安  
 国寺御創建不被為成候。其上開山恵日聖光国師・清泉禪  
 師、從 兩帝様被下勅使、被遂国師參内、法御示道ニ被  
 為成御叶、其上を以紫衣之御綸旨被成下、并御直衣を拜  
 領、則此法衣今以軋衣之輩頂戴仕、忝成拜龍顏、奉祈国家  
 安全・宝祈長久候。代々致參内、紫衣頂戴仕来候御事。

一拙僧義任先例、六年以前遂直參内、拜龍顏歸寺仕候  
 節、伝奏清閑寺大納言殿於日本法燈一宗之本寺、紫衣  
 勅願ノ山ハ貴寺而已ニ候間、其国之寺杜奉行へ伝達仕、弥  
 々寺基相統尤之旨御狀被下、則所持仕候御事。

一御当家 高德院様初而守山江御入城之年、当寺ノ方丈ヲ  
 御城書院ニ被為成。其節小寺山林異義有間敷之被成下御  
 印。則御家老寺嶋甚丞殿添狀於寺内ノ義、如先規相違  
 有間敷旨、方丈之義者、当分小屋懸ヶ成共可仕、以来者  
 御建立可被為成旨被仰渡候へ共、其後無住罷成御断も不  
 申上候。

微妙院様御判ニも居屋敷・田地并山林・竹木、如亜相・  
 黄門相違在間敷と被成下候。然処、其後越中御驗地之  
 節、宿坊故御断も不申上、田地減失仕、只今居屋敷共ニ  
 草高拾式石三斗九升支配仕候。此外之田地者、百姓地ニ  
 罷成候御事。

一微妙院様御懇之仕合ニ而、折々進物等差上申処ニ、御  
 書被下数通所持仕候御事。

一御綸旨・御寄進・御判之物・寺旧記書・御狀等、別紙  
 目録之通ニ御座候御事。

右之趣ニ御座候へハ、於日本法燈一派之本寺、紫衣勅  
 願之山ハ拙寺迄ニ御座候条、諸末山出世之剋、清規等  
 も有之候故、衆僧多召抱候得共、今程者托鉢之鉢ニ暮シ  
 申候。只今差上候外、寺由來書并縁起・御寄進狀等無  
 御座候。以上。

貞享貳年二月廿三日

越中

国泰寺

不

富

## 覚

一 寺旧記書但し名判無御座候

一通

合三拾六通

一 光明帝様御寄進御自筆三杜之佐宣

一幅

一 伏見院重保様御状

右之外寺由來書并縁起・御寄進状等無御座候。以上。

一 立成紫衣御綸旨

一通

一 居成紫衣御綸旨

七通

一 小川坊城大納言殿御状

五通

一 甘露寺弁殿御状

一通

一 油小路大納言殿御状

二通

一 小川坊城大納言殿・油小路大納言殿御連状

一通

一 清閑寺大納言殿御状

三通

一 同弁殿御状

一通

一 小川坊城大納言殿・油小路大納言殿両御家老連状

一通

貞享四年三月

不破彦三  
岡崎市郎兵衛

一 広庭中務少輔殿状

一通

一 高德院様御印

一通

一 微妙院様御寄進御判之物

一通

一 同御書

四通

一 寺嶋甚丞殿状

一通

右御菩提所之外、御寺領・御社領等御座候御領國中寺社  
方由來、書写仕上之申候。以上。